



令和元(2019)年度

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業  
「次世代研究者育成プログラム」

# 未来を拓く地方協奏プラットフォーム 成果報告書

---

令和2(2020)年3月



科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業  
「次世代研究者育成プログラム」

# 未来を拓く 地方協奏プラットフォーム

令和元(2019)年度

## 成果報告書

令和2(2020)年3月

# 目 次

1. はじめに .....	1
2. 「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の概要 .....	2
2-1. 概要 .....	2
2-2. 連携機関 .....	3
2-3. 推進体制 .....	5
2-3-1. 令和元（2019）年度の推進体制 .....	6
2-3-2. HIRAKU 運営協議会事務局 .....	7
2-3-3. HIRAKU 運営協議会開催実績 .....	7
2-4. 年次計画（数値目標） .....	9
2-4-1. コンソーシアム教員の採用人数 .....	9
2-4-2. 長期インターンシップ生の派遣人数 .....	9
3. テニユアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム .....	10
3-1. コンソーシアム教員の公募・審査・採用実績 .....	10
3-2. コンソーシアム教員の着任状況 .....	14
3-3. コンソーシアム教員の育成 .....	17
3-3-1. 自立的な研究環境確保等について .....	17
3-3-2. コンソーシアム教員研修について .....	18
3-3-3. メンター制度など .....	19
3-4. コンソーシアム教員の評価 .....	19
4. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム .....	22
4-1. 長期インターンシップ生の募集 .....	22
第 10・11 期（令和元(2019)年度） .....	22
4-2. 長期インターンシップの派遣実績 .....	23
4-2-1. 令和元(2019)年度第 10 期派遣者 .....	23
4-2-2. 令和元(2019)年度第 11 期派遣者 .....	23
5. 成果報告会 .....	25
5-1. 第 9 回成果報告会 .....	25
5-2. 第 10 回成果報告会 .....	26

<b>6. DC や PD が積極的に関与する取組</b> .....	<b>27</b>
6-1. 未来博士 3 分間コンペティション 2019 .....	27
6-2. 第 4 回課題提案型ワークショップ .....	29
6-3. ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム .....	31
<b>7. コンソーシアム人材セミナー</b> .....	<b>32</b>
<b>8. 若手研究人材の意識啓発を促す取組</b> .....	<b>43</b>
8-1. ウェブサイト .....	43
8-2. 学生むけ小冊子 HIRAKU .....	45
8-3. 学生むけ小冊子 HAKUSHI .....	50
<b>9. 若手研究人材のキャリアスタート支援</b> .....	<b>52</b>
9-1. 若手研究人材ポートフォリオ HIRAKU-PF .....	52
9-2. 博士人材キャリア相談室 .....	60
<b>10. 代表機関および共同実施機関独自の取組</b> .....	<b>61</b>
10-1. 広島大学独自の取組 .....	61
10-1-1. 広島大学特別研究員 成果報告会 .....	61
10-1-2. HIRAKU 実践プログラム .....	63
10-1-3. 研究者等紹介 .....	65
10-1-4. 4 年手帳 .....	67
10-2. 山口大学独自の取組 .....	68
10-2-1. 実施体制 .....	68
10-2-2. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム .....	68
10-2-3. テニューアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム .....	70
10-3. 徳島大学独自の取組 .....	72
10-3-1. 実施体制 .....	72
10-3-2. 若手研究者の自立・流動促進プログラム .....	72
10-3-3. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム .....	74
<b>11. 外部評価</b> .....	<b>78</b>
11-1. 外部評価委員会 .....	78



## 1. はじめに

本報告書は、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業（次世代研究者育成プログラム）」に採択された「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」（HIRAKU）の、開始後6年目である2019年度の活動とその成果をまとめたものです。

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」は、広島大学が代表機関、山口大学と徳島大学が共同実施機関として、また、本書で述べるように、多くの連携機関の協力を得て、推進しています。博士課程後期学生を含む若手研究人材の育成を目的とするプラットフォーム（HIRAKU-PF）を共同で構築し、自己啓発や専門的能力開発の環境をつくり、また、長期インターンシップや共同研究等の機会を増やしています。さらに、テニュアトラック研究者をコンソーシアムとして共同で公募・選考し、より多くの優秀な若手研究人材を国内外から集め、多様な研究環境と雇用形態を提供しています。また、優秀な女性研究者に活躍の場を提供する取組も進めています。

若手研究人材の養成やキャリアスタート支援は、一つの大学だけでできるものではありません。社会全体の問題として、多くの機関が協力して行うものです。本コンソーシアムはこの考え方を基調として、問題意識を共有している大学や企業等が、組織の壁を越えて、連携し実施しています。HIRAKUでは、代表及び共同実施機関の3大学だけでなく、多くの連携大学に所属する大学院生にも、長期インターンシップに派遣する機会を提供しています。

広島大学では、科学技術人材育成費補助金「イノベーション創出若手研究人材養成」に採択された「地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画」（平成21（2009）～平成25（2013）年度）の取組により、若手研究人材を社会に輩出する、ということ意識して実施するようになりました。また、科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速」に採択された「広大システム改革による女性研究者活躍促進」（平成22（2010）～平成26（2014）年度）の取組により、女性限定公募と女性研究者支援を実施してきています。「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」は、これら二つの取組を実施してきた経験と実績をふまえて、事業全体を設計し、実行しています。

本事業は、平成26（2014）～令和3（2021）年度の8年間の予定で実施しています。平成28（2016）年度に中間評価を受けました。すべての項目で所期の計画どおりに取組を進めている、と認められ、また、大きな波及効果があることも認めていただきました。この事業は、平成30（2018）年度で補助期間が終了しております。持続可能な、そして、より効果的な影響を及ぼしていくように、これまでの取組内容と成果を検証しつつ、事業を継続しています。ここに、開始6年目の活動と実績をまとめております。本事業の活動状況をご覧いただき、ご忌憚のないご意見をいただきたいと考えております。

これからも若手研究人材の育成と多様なキャリアパスの構築にご支援いただきますよう、どうぞよろしくお願いたします。

令和2（2020）年3月1日  
広島大学 理事・副学長（大学改革担当）  
大学院理学研究科 教授  
相田 美砂子

## 2. 「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の概要

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」は、平成 26 (2014) 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業 (次世代研究者育成プログラム)」に申請し、採択された。

本報告書は、開始後 6 年目となった令和元 (2019) 年度の成果をまとめたものである。

### 2-1. 概要

コンソーシアムの名称： 未来を拓く地方協奏プラットフォーム

代表機関名： 国立大学法人広島大学

総括責任者名： 広島大学長

共同実施機関名： 国立大学法人山口大学, 国立大学法人徳島大学

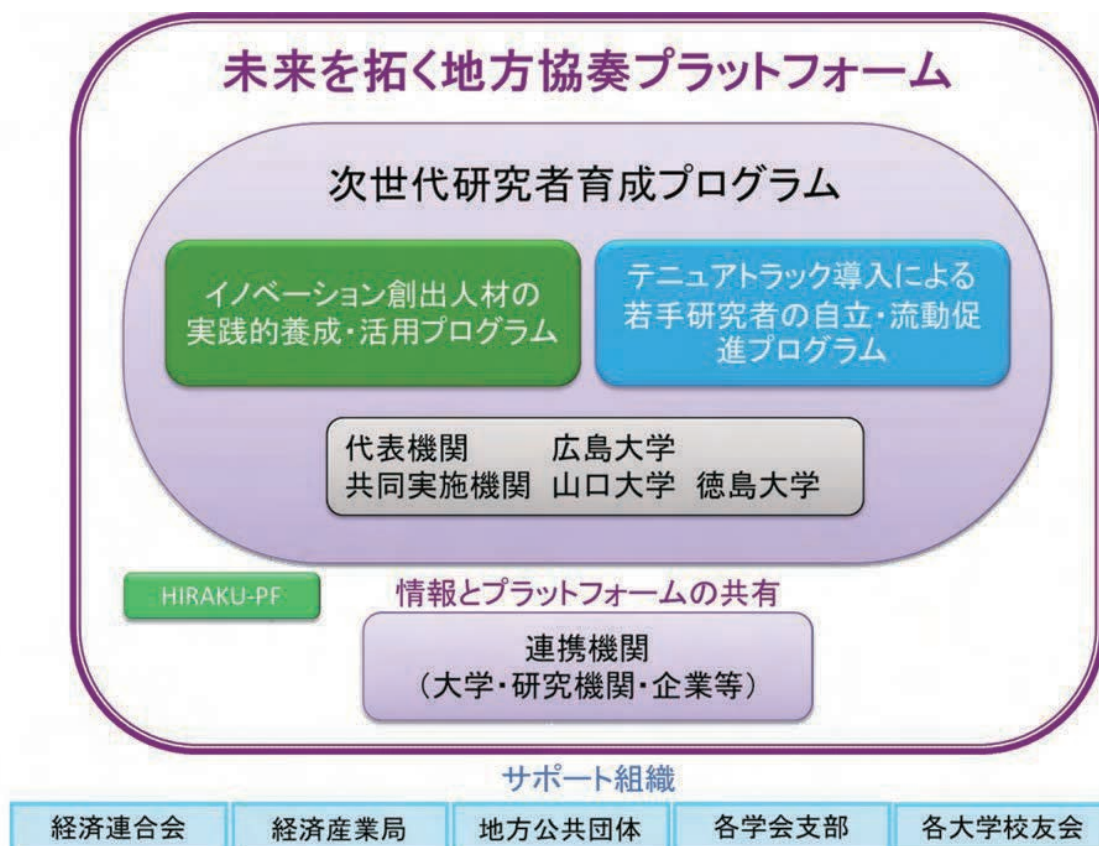
実施予定期間： 平成 26 (2014) 年度～令和 3 (2021) 年度

取組の概要：

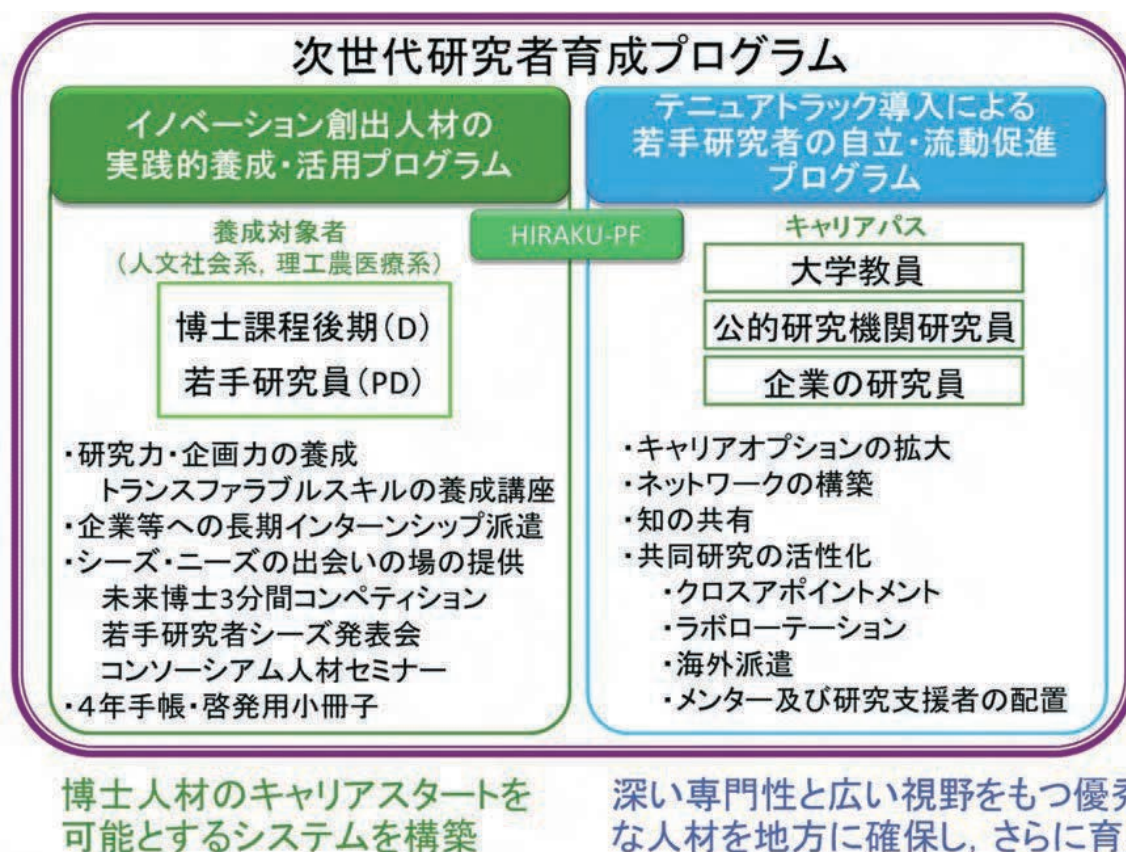
中国・四国地方を中心とする西日本の大学等を中心としたコンソーシアムを構築し、共同でテニュアトラック研究者を公募、選考する。より多くの優秀な若手研究人材を国内外から集める。多様な雇用・流動形態 (クロスアポイントメント, ラボローテーション等) の導入により、彼らが異なる知と交わり、ネットワークを構築できるよう支援する。女性枠を設定し、女性の活躍促進につなげる。

博士課程後期学生を含む若手研究人材が、地域や国際社会を変革するイノベーターとして自立できるよう、彼らの実践的な養成・活用を可能とするプラットフォームを共同で構築する。トランスファラブルスキル養成に必要なリソースの共有を図り、シーズ・ニーズのマッチングにより、インターンシップ、就職、共同研究等の機会を増やす。

若手研究人材の養成・活用を通じて、コンソーシアム内外の知の循環を加速させ、地域全体の社会的課題の解決やイノベーション創出を図り、地方創生につなげる。







## 2-2. 連携機関

令和2（2020）年2月末現在の連携機関は次のとおりであり、計63機関（50音順）である。

### 国立大学法人

1	愛媛大学
2	岡山大学
3	香川大学
4	岐阜大学
5	高知大学
6	島根大学
7	鳥取大学
8	鳴門教育大学
9	国立遺伝学研究所／ 総合研究大学院大学生命科学研究科 遺伝学専攻

### 公私立大学法人

1	県立広島大学
2	高知工科大学
3	広島市立大学
4	広島国際大学
5	立命館大学

### 行政

1	広島県
---	-----

公的研究機関

1	国立研究開発法人産業技術総合研究所四国センター
2	国立研究開発法人産業技術総合研究所中国センター
3	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構西日本農業研究センター
4	独立行政法人酒類総合研究所

公的団体

1	公益財団法人くれ産業振興センター
2	一般社団法人中国経済連合会
3	一般社団法人中国地域ニュービジネス協議会
4	地方独立行政法人山口県産業技術センター

企業

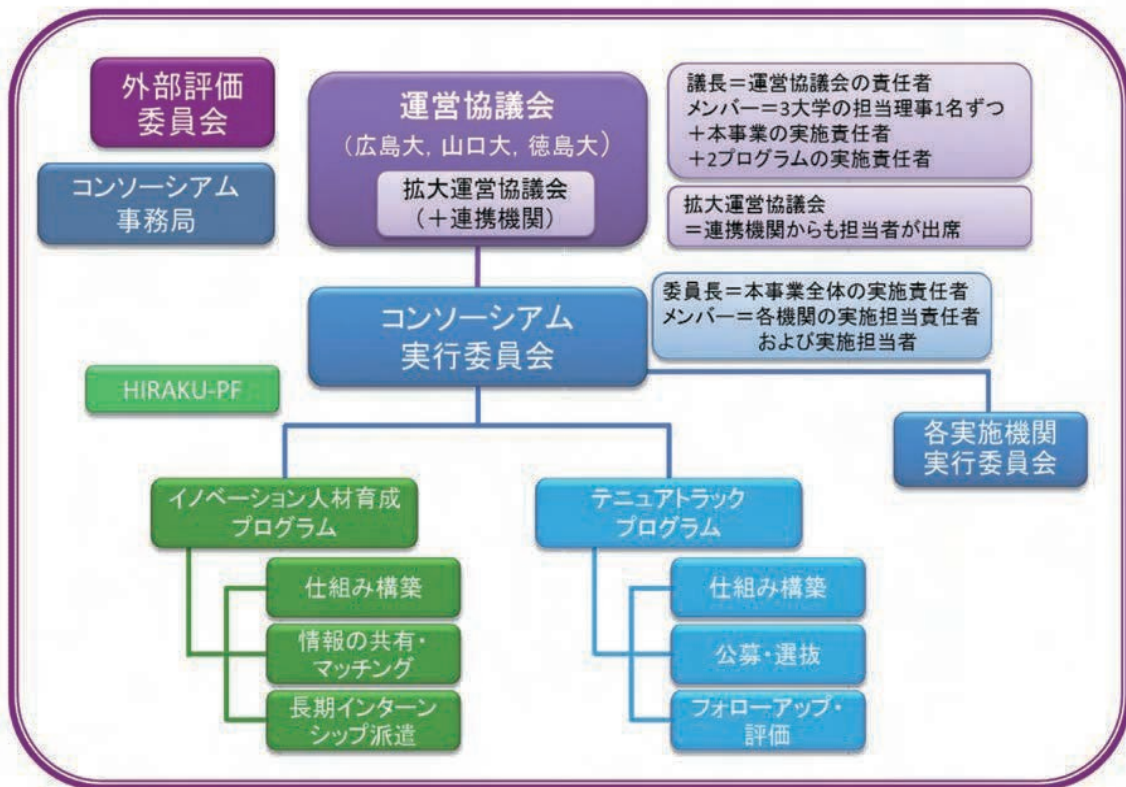
1	株式会社あじかん
2	株式会社アビー
3	EYアドバイザリー・アンド・コンサルティング株式会社
4	大塚製薬株式会社
5	倉敷紡績株式会社
6	株式会社計測リサーチコンサルタント
7	株式会社サタケ
8	三新化学工業株式会社
9	JFEスチール株式会社
10	株式会社ジェイ・エム・エス
11	株式会社ジェーイーエル
12	シュプリンガー・ネイチャー
13	昭和電工株式会社
14	中外テクノス株式会社
15	中国電力株式会社エネルギー総合研究所
16	帝人ナカシマメディカル株式会社
17	東ソー株式会社
18	株式会社東洋高圧
19	株式会社トクヤマ 徳山製造所
20	戸田工業株式会社
21	西川ゴム工業株式会社
22	日本アイ・ビー・エム株式会社
23	株式会社日本製鋼所 広島製作所
24	日本製鉄株式会社 技術開発本部
25	日本ハム株式会社 中央研究所
26	株式会社野村総合研究所

27	株式会社フェニックスバイオ
28	富士通株式会社 西日本営業本部 関西文教統括営業部
29	フマキラー株式会社
30	ベネッセ教育総合研究所
31	株式会社ペンタスネット
32	マツダ株式会社
33	株式会社MICOTOテクノロジー
34	三菱ケミカル株式会社 大竹研究所
35	三菱重工株式会社 広島製作所
36	三菱日立パワーシステムズ株式会社 呉工場
37	メドエルジャパン株式会社
38	矢崎総業株式会社 技術研究所
39	株式会社リバナス

海外機関

1	Vitae (イギリス)
---	--------------

2-3. 推進体制



運営協議会は、実施機関である広島大学、山口大学、徳島大学の各担当理事、本事業の実施責任者、およびプログラム責任者で構成する。また、運営協議会のサブ組織として拡大運営協議会を置く。拡大運営協議会は、運営協議会に連携機関の実施責任者を加えたメンバーで構成する。

運営協議会において、コンソーシアム全体および各機関の意思疎通を図る。運営協議会の下にコンソーシアム実行委員会を設置し、コンソーシアムとしての活動を進める。各実施機関においては、それぞれ実行委員会等を設置し、活動を進める。

運営協議会、拡大運営協議会、コンソーシアム実行委員会を必要に応じ開催し、各機関の事情をふまえながらコンソーシアム全体としての方針を決定し、実行する。

## 2-3-1. 令和元（2019）年度の推進体制

### (1) コンソーシアムとしての責任者

総括責任者：	広島大学	学長	越智	光夫
実施責任者：	広島大学	理事・副学長（大学改革担当）	相田	美砂子
運営協議会責任者：	広島大学	理事・副学長（社会産学連携担当）	河原	能久
		（担当事務：学術・社会連携室学術・社会連携部 学術・社会連携支援GL 角田 尚子）		
運営協議会メンバー：	山口大学	理事・副学長（学術研究担当）	堀	憲次
	徳島大学	理事・副学長（研究担当）	佐々木	卓也
	広島大学	理事・副学長（大学改革担当）	相田	美砂子
	広島大学	グローバルキャリアデザインセンター 副センター長 教授	三須	敏幸

### コンソーシアム実行委員会：

「テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム」責任者	広島大学	理事・副学長（大学改革担当）	相田	美砂子
「イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム」責任者	広島大学	グローバルキャリアデザインセンター 副センター長 教授	三須	敏幸

### (2) 各実施機関の責任者

#### ◆広島大学

「テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム」	広島大学	理事・副学長（研究担当）	楯	真一
		（担当事務：学術・社会連携室学術・社会連携部 学術・社会連携企画GL 小左古 学）		

「イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム」

広島大学	グローバルキャリアデザインセンター長	江坂	宗春
	（担当事務：教育室教育部キャリア支援GL 地藏堂 聡）		

#### ◆山口大学

山口大学	理事・副学長（学術研究担当）	堀	憲次
	（担当事務：学術研究部研究推進課長 松本 勝典）		

#### ◆徳島大学

徳島大学	理事・副学長（研究担当）	佐々木	卓也
	（担当事務：研究推進部産学連携・研究推進課長 小西 浩司）		

## 2-3-2. HIRAKU 運営協議会事務局

◆令和元（2019）年度

### 専任職員

推進員（事務統括）	山本 正和
事務職員（教育室）	梶田 真理（キャリア支援G主任）
コーディネーター	都留 良男
コーディネーター	宮地 壽
推進員	岡崎 亜紀子
推進員	福見 朋子
推進員	久保 叔子
事業担当システム開発	細川 志織
事業担当システム開発	坂宗 和明

### 協力職員

学術・社会連携室	角田 尚子（学術・社会連携支援GL）
	宮 秀貴（学術・社会連携支援G主査）
	林 あい子（学術・社会連携企画G員）

## 2-3-3. HIRAKU 運営協議会開催実績

### (1) 第 31 回 HIRAKU 運営協議会

【日 時】 令和元（2019）年 8 月 8 日（木）16：00～17：00

【場 所】 山口大学吉田キャンパス 大学会館 2 階 セミナー室

【出席者】 （山口大学）堀理事，（徳島大学）佐々木理事

（広島大学）相田理事，原社会連携部長（河原理事代理），三須教授

他 9 名（合計 14 名）

#### 【議題と報告事項】

- ・長期インターンシップの最終評価について
- ・コンソーシアム教員の年度評価について
- ・コンソーシアム教員の中間評価について
- ・コンソーシアム教員の最終評価について
- ・第 11 期（2019 年度後期）コンソーシアム教員公募について
- ・第 12・13 期（2020 年度）コンソーシアム教員公募について
- ・2014-2019 年度コンソーシアム教員の採用状況について
- ・「未来博士 3 分間コンペティション 2019」について ほか

### (2) 第 32 回 HIRAKU 運営協議会

【日 時】 令和元（2020）年 2 月 7 日（金）15：45～16：45

【場 所】 徳島大学常三島キャンパス 産官学連携プラザ 3F 日亜ホール

【出席者】 （山口大学）堀理事，（徳島大学）佐々木理事

（広島大学）河原理事，相田理事，三須教授

他 14 名（合計 19 名）

【議題と報告事項】

- ・ HIRAKU 事業の運営体制の見直しについて
- ・ 令和 2 年度の実施計画について
- ・ 長期インターンシップの募集要項について
- ・ HIRAKU 連携機関の登録について
- ・ 「未来博士 3 分間コンペティション 2020」の企画及び「未来博士 3 分間コンペティション 2019」の開催報告について
- ・ 2019 年度長期インターンシップ派遣状況について
- ・ 第 12・13 期（2020 年度）コンソーシアム教員公募について
- ・ コンソーシアム教員の年度評価について
- ・ コンソーシアム教員の中間評価について
- ・ コンソーシアム教員の最終評価について
- ・ 2014・2019 年度コンソーシアム教員の採用状況について
- ・ 令和元（2019）年度成果報告書の作成について                      ほか

## 2-4. 年次計画（数値目標）

### 2-4-1. コンソーシアム教員の採用人数

	平成 26 (2014) 年度	平成 27 (2015) 年度	平成 28 (2016) 年度	平成 29 (2017) 年度	平成 30 (2018) 年度	平成 31/令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度
春着任		第 2 期	第 4 期	第 6 期	第 8 期	第 10 期	第 12 期	第 14 期
秋着任	第 1 期 (冬)	第 3 期	第 5 期	第 7 期	第 9 期	第 11 期	第 13 期	第 15 期
広島大学	4	5	6	6	6	6	6	6
山口大学	0	2	1	1	1	1	1	1
徳島大学	0	1	1	1	1	1	1	1
計	4	8	8	8	8	8	8	8

### 2-4-2. 長期インターンシップ生の派遣人数

	平成 26 (2014) 年度	平成 27 (2015) 年度	平成 28 (2016) 年度	平成 29 (2017) 年度	平成 30 (2018) 年度	平成 31/令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度
前期		第 2 期	第 4 期	第 6 期	第 8 期	第 10 期	第 12 期	第 14 期
後期	第 1 期	第 3 期	第 5 期	第 7 期	第 9 期	第 11 期	第 13 期	第 15 期
広島大学	4	14	14	14	14	14	14	14
山口大学	0	2	2	2	2	2	2	2
徳島大学	2	2	2	2	2	2	2	2
計	6	18	18	18	18	18	18	18

### 3. テニユアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム

#### 3-1. コンソーシアム教員の公募・審査・採用実績

	平成 26(2014)年度	平成 27(2015)年度		平成 28(2016)年度	
春着任		第 2 期		第 4 期	
秋着任	第 1 期(冬)		第 3 期		第 5 期
広島大学	4	2(2)	3(1)	2(2)	4(4)
山口大学	0	2	0	1(1)	0
徳島大学	0	0	1	1	0
公募開始	平成 26(2014)年 11 月 25 日	平成 26(2014)年 12 月 26 日	平成 27(2015)年 4 月 28 日	平成 27(2015)年 10 月 13 日	平成 28(2016)年 4 月 28 日
公募締切	平成 26(2014)年 12 月 22 日	平成 27(2015)年 1 月 29 日	平成 27(2015)年 6 月 25 日	平成 27(2015)年 12 月 10 日	平成 28(2016)年 6 月 30 日
コンソーシアム内 公開ヒアリング	平成 27(2015)年 1 月 23 日	平成 27(2015)年 3 月 5 日	平成 27(2015)年 8 月 26 日	平成 28(2016)年 2 月 29 日	平成 28(2016)年 8 月 26 日
採用者計	4[2]	4[2]	4[1]	4[4]	4[4]
	平成 29(2017)年度		平成 30(2018)年度		平成 31/令和 1 (2019)年度
春着任	第 6 期		第 8 期		第 10 期
秋着任		第 7 期		第 9 期	
広島大学	2(1)	4(2)	3(2)	3(2)	3(1)
山口大学	0	1	0	1	0
徳島大学	1	0	0	1	0
公募開始	平成 28(2016)年 10 月 11 日	平成 29(2017)年 3 月 10 日	平成 29(2017)年 9 月 1 日	平成 30(2018)年 2 月 2 日	平成 30(2018)年 8 月 2 日
公募締切	平成 28(2016)年 12 月 12 日	平成 29(2017)年 5 月 15 日	平成 29(2017)年 10 月 31 日	平成 30(2018)年 4 月 2 日	平成 30(2018)年 10 月 1 日
コンソーシアム内 公開ヒアリング	平成 29(2017)年 2 月 1 日	平成 29(2017)年 7 月 31 日	平成 29(2017)年 12 月 25 日	平成 30(2018)年 7 月 19 日	平成 30(2018)年 12 月 13 日
採用者計	3[1]	5[2]	3[2]	5[3]	3[1]
	平成 31/令和元 (2019)年度	令和 2(2020)年度			
春着任		第 12 期			
秋着任	第 11 期		第 13 期		
広島大学	3(1)	4(1)	2(1)		
山口大学	1	0	1		
徳島大学	1	1(1)	0		
公募開始	平成 31(2019)年 3 月 26 日	令和 1 年(2019)年 7 月 29 日以降随時			
公募締切	平成 31(2019)年 5 月 27 日				
コンソーシアム内 公開ヒアリング					
採用者計	5[2]	5[3]	3[1]予定		

(括弧内の数) →女性限定公募の件数 (内数)

[括弧内の数] →採用者の内の女性の数 [内数]

「次世代研究者」の公募について、本コンソーシアムでは、実施機関（広島大学、山口大学、徳島大学）がそれぞれ事業計画及び大学の計画に従った募集分野・人数・職階の候補を提案し、コンソーシアム運営協議会において決定した後、コンソーシアムで公募、選考を行い、実施機関で採用を行っている（本スキームで採用された教員を、以下コンソーシアム教員と記す。）公募の実施にあたっては、運営協議会での決定を受けて、コンソーシアム実行委員会と事務局が実施している。



コンソーシアム教員の公募にあたっては、実施機関側にはその職に求める条件として、テニユアトラック制での処遇を求めている。また、各実施機関内での早期定着、安定的で迅速な研究環境の確保、雇用後の流動性の担保などの観点から、各大学の制度に則った上で、いわゆる定員枠の教員と可能な限り同じ取扱いを求めている。そのため、広島大学では、コンソーシアム教員について、特殊な職階を設定せず、全て（通常の）助教として公募、採用している。

コンソーシアム教員となるものについては、以下の点を共通した要件としている。

- ・博士号を取得後 10 年以内(※1)又は同等程度の研究経歴(※2)を有し、かつ、40 歳未満(※3)である若手研究者（ただし、臨床研修を課せられた医学系分野においては 43 歳未満）
  - ※1 産前・産後休暇および育児休暇を取得した方は、その取得期間について 10 年を越えることが可能。
  - ※2 博士課程に標準年限以上在学し、所定の単位を修得した上、退学した（いわゆる「満期退学者」）で、退学後 10 年以内の研究者。
  - ※3 文部科学省の平成 26（2014）年度科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業による補助対象のため、雇用対策法施行規則第 1 条の 3 第 1 項第 3 号ニに該当するとして実施。
- ・英語によるコミュニケーション能力を有すること。
- ・日本語又は英語による学部・大学院生への授業及び研究指導ができること。
- ・科学技術イノベーションの実現に向けて積極的な研究活動を行う意志をもつこと。

これらの共通する要件に加え、各機関・分野で必要と認められた要件については、特有事項として加えている。

世界中から優秀かつ多様な人材を呼び込むために、国際公募とし、海外にも積極的に情報を展開している。また、公募要領上では、各機関で共通する内容については、可能な限り詳細な情報を掲示すると共に、各機関・分野の HP などを紹介し、外国在住者でも応募しやすくなるよう心がけた。さらに、国内外から寄せられた問い合わせに対しては、事務局で可能な限り迅速かつ丁寧な対応を行った。

従来の教員公募においては、各機関の人事担当部署及び各公募の責任教員が直接個別に対応しており、特に国際公募では大きな負担となっているが、これをコンソーシアムとして一括で対応し、Q&A として公開することで、応募者、事務双方の負担の軽減を図っている。

加えて、女性教員の少ない分野では、各実施機関に対して女性限定公募を行うよう積極的に働きかけており、その結果、第 11 期（令和元（2019）年度後期採用）までの 44 件の公募のうち 20（再公募 1 件を含む）件を女性限定公募として行った。また、女性限定公募でない場合も、公募要領上に女性研究者への支援を明記し、各機関の環境整備状況を明記することにより、女性への積極的な応募を促している。

第 11 期（令和元（2019）年度後期採用）までに、外国籍教員の採用は 2 割近い 8 名となっており、全採用教員 44 名のうち半数以上にあたる 24 名の女性教員の採用につながった。研究分野のみでなく、ジェンダー、国籍などで多様なメンバーで構成されていると言える。

コンソーシアム教員は、各分野での優秀な教員候補であるのみならず、多様な人材に対してリーダーシップを発揮しなければならない将来の産学官のリーダー候補であるが、本コンソーシアムではその目的に沿った人材を公正なシステムに基づいて採用できている。

なお、応募にあたっては、以下の内容を共通して求めている。

- ① 履歴書
- ② 業績リスト※ 主要論文（5 編以内）のコピーを添付すること。
- ③ これまでの研究概要（A4 4 ページ以内、図表含む）
- ④ 本コンソーシアムにおける研究計画（A4 4 ページ以内、今後 5 年間の研究計画）

⑤ 科学技術イノベーションへの貢献に向けた抱負

⑥ 推薦者リスト（推薦者の所属、氏名、電話番号、電子メールアドレスを2名分記載）

公募情報は、JREC-IN Portal, コンソーシアム HP, 各大学 HP 等において英語及び日本語で公開し、公募を実施し、公募期間は2か月以上となるように設定している。

応募者は、コンソーシアムが指定する日英共通様式（フォーム）に記入して提出する。世界中から幅広い人材の応募を得るために、応募書類はすべて電子メールで受け付けている。

選考にあたっては、コンソーシアム事務局における応募の取りまとめの後、各公募分野における一次選考の後、コンソーシアム運営協議会において審議（メール審議）を行う。その結果を各大学に通知し、各大学が採用手続きを進める形で行った。

従来の大学教員採用においては、他機関がその人材を知る機会が少なかったが、コンソーシアムとしての強みである複数大学での共同実施による協力体制のもと、優秀な若手研究人材を積極的に活かすための仕組みを構築できており、中国四国地域を活性化するための一歩となっていると言える。

#### ◆第10期公募（平成31（2019）年度前期）

- ・JREC-IN, コンソーシアム HP, 各大学 HP にて英語及び日本語で公募。各分野の国内学会 HP, メーリングリスト等においても周知。
- ・平成30（2018）年8月2日（木）公募開始, 平成30（2018）年10月1日（月）締切（分野により, 平成30（2018）年10月9日（火）まで募集期間延長）, 平成30（2018）年12月13日（木）コンソーシアム内公開ヒアリング, 平成31（2019）年4月1日（月）採用。
- ・公募分野：統計学（広島大学）, 農学応用生命科学（広島大学・女性限定公募）, 数理モデリング・数理生命科学（広島大学）
- ・3分野合計で19名の応募を得た（うち女性5名）

#### ◆第11期公募（令和元（2019）年度後期）

- ・JREC-IN, コンソーシアム HP, 各大学 HP にて英語及び日本語で公募。各分野の国内学会 HP, メーリングリスト等においても周知。
- ・平成31（2019）年3月26日（火）公募開始, 令和元（2019）年5月27日（月）締切（分野により, 令和元（2019）年6月3日（月）まで募集期間延長）, 令和元（2019）年7月 運営協議会による審議（メール審議）。令和元（2019）年10月1日（火）以降採用。
- ・公募分野：次世代フォトンクス研究（徳島大学）, 知能情報工学（山口大学）, 材料科学に立脚した物性物理学（広島大学）, 応用有機化学（広島大学）, 植物生産学（広島大学・女性限定公募）
- ・6分野（再公募分を含む）合計で38名の応募を得た（うち女性9名）
- ・知能情報工学（山口大学）においては、選考時に適任者がなく同分野で再公募を行った。令和元（2019）年7月22日（月）公募開始, 令和元（2019）年9月30日（月）締切, 令和元（2019）年11月 運営協議会による審議（メール審議）。令和2（2020）年3月1日（日）採用。

#### ◆第12期・第13期公募（令和2（2020）年度前期）

- ・JREC-IN, コンソーシアム HP, 各大学 HP にて英語及び日本語で公募。各分野の国内学会 HP, メーリングリスト等においても周知。
- ・令和元（2019）年7月以降, 随時公募開始, 令和元（2019）年11月以降, 随時運営協議会による審議（メール審議）。令和2（2020）年4月1日（水）以降採用予定。

- ・公募分野：創薬理論化学（徳島大学・女性限定公募），化学工学・サステイナブル工学・表面科学・材料科学（広島大学・女性限定公募），放射線生物学・放射線防護学（広島大学），家禽生理学（広島大学），流域水資源安全保障学（広島大学）
- ・5分野合計で21名の応募を得た（うち女性7名）

◆第12期・第13期公募（令和2（2020）年度後期）

- ・JREC-IN, コンソーシアム HP, 各大学 HP にて英語及び日本語で公募。各分野の国内学会 HP, メーリングリスト等においても周知。
- ・令和元（2019）年11月以降，随時公募開始，令和2（2020）年10月1日（木）以降採用予定。
- ・公募分野：有機材料化学（広島大学），構造生物科学（広島大学・女性限定公募），未定（山口大学）

### 3-2. コンソーシアム教員の着任状況

(所属先名称は着任時のもの)

公募分野	所属先	氏名	着任日
第 1 期			
欧米文学語学・言語学	広島大学 大学院文学研究科	松本 舞 ※5	平成 27(2015)年 3月1日
マクロ経済学	広島大学 大学院社会科学研究科	中川 雅央 ※5	平成 27(2015)年 3月1日
反応性機能分子の化学	広島大学 大学院理学研究科	Shang Rong ※5	平成 27(2015)年 3月1日
宇宙科学	広島大学 大学院理学研究科	岡部 信広 ※5	平成 27(2015)年 3月1日
第 2 期			
病態制御学講座(獣医衛生学分野)	山口大学 共同獣医学部	渋谷 周作 ※7	平成 27(2015)年 4月1日
整形外科学	広島大学 大学院医歯薬保健学研究院	中島 祐子 ※1	平成 27(2015)年 4月1日
細胞生物学もしくは発生生物学	山口大学 大学院医学系研究科	原 裕貴 ※9	平成 27(2015)年 6月1日
水産生物学	広島大学 大学院生物圏科学研究科	若林 香織 ※3	平成 27(2015)年 7月1日
第 3 期			
家畜繁殖学	広島大学 大学院生物圏科学研究科	星野 由美 ※10	平成 27(2015)年 11月1日
地球環境計画学	広島大学 大学院工学研究院	Lam Chi Yung	平成 27(2015)年 11月1日
老年看護学	広島大学 大学院医歯薬保健学研究院	梶原 弘平 ※11	平成 28(2016)年 2月1日
家畜繁殖学	徳島大学大学院社会産業理工学研究部	谷原 史倫	平成 28(2016)年 2月1日
第 4 期			
果樹園芸学	山口大学 大学院創成科学研究科	金 貞希	平成 28(2016)年 4月1日
有機合成薬学	徳島大学 大学院医歯薬学研究部	Karanjit Sangita	平成 28(2016)年 4月1日
食品科学	広島大学大学院 (大学院生物圏科学研究科)	Kumrungsee Thanutchaporn ※12	平成 28(2016)年 4月1日
スポーツ栄養学	広島大学大学院 (大学院総合科学研究科)	緒形 ひとみ ※3	平成 28(2016)年 9月1日

公募分野	所属先	氏名	着任日
第 5 期			
物性物理	広島大学大学院 (大学院理学研究科)	真木 祥千子 ※2	平成 28(2016)年 11月1日
大気海洋循環制御論	広島大学大学院 (大学院生物圏科学研究科)	岩本 洋子 ※3	平成 29(2017)年 2月1日
半導体・ナノテクノロジー	広島大学大学院 (大学院先端物質科学研究科)	水川 友里	平成 29(2017)年 3月1日
文化人類学	広島大学大学院 (大学院総合科学研究科)	栗田 梨津子 ※4	平成 29(2017)年 3月1日
第 6 期			
メタボローム栄養学	徳島大学大学院医歯薬学研究部 栄養科学部門	黒田 雅士	平成 29(2017)年 4月1日
生理化学	広島大学大学院 (大学院医歯薬保健学研究科(薬))	小藤 智史 ※6	平成 29(2017)年 6月1日
放射線防護・線量評価	広島大学大学院 (原爆放射線医科学研究所)	廣田 誠子 ※8	平成 29(2017)年 10月1日
第 7 期			
実験心理学	広島大学大学院 (大学院総合科学研究科)	吉本 早苗	平成 29(2017)年 10月1日
応用動物遺伝学	広島大学大学院 (大学院生物圏科学研究科)	中村 隼明	平成 29(2017)年 10月1日
生物情報工学	広島大学大学院 (大学院先端物質科学研究科)	加藤 節	平成 29(2017)年 12月1日
統計学	広島大学大学院 (大学院理学研究科)	伊森 晋平 ※13	平成 30(2018)年 1月18日
応用化学	山口大学大学院 創成科学研究 科工学系域	吉田 真明	平成 30(2018)年 3月1日
第 8 期			
構造生物学	広島大学大学院 (大学院医歯薬保健学研究(医))	東浦 彰史	平成 30(2018)年 4月1日
生命医療科学	広島大学大学院 (大学院理学研究科)	高橋 治子	平成 30(2018)年 4月1日
天文学	広島大学大学院 (宇宙科学センター)	稲見 華恵	平成 31(2019)年 2月1日
第 9 期			
ロボット工学	徳島大学大学院 社会産業理工 学研究部	松井 保子	平成 30(2018)年 10月1日

公募分野	所属先	氏名	着任日
物理化学	広島大学大学院 (大学院理学研究科)	村松 悟	平成 30(2018)年 10月1日
生命医療科学	広島大学大学院 (大学院医歯薬保健学研究科(医))	Kasaragod Deepa Kamath	平成 30(2018)年 11月1日
構造材料工学	広島大学大学院 (大学院工学研究科)	George Riya Catherine	平成 30(2018)年 12月1日
循環環境工学	山口大学大学院創成科学研究 (工学系学域)	石井 治之	平成 31(2019)年 2月1日
第 10 期			
統計学	広島大学大学院 (大学院社会科学研究科)	高島 哲也	平成 31(2019)年 4月1日
数理モデリング・数理 生命科学	広島大学大学院 (大学院理学研究科)	藤井 雅史	平成 31(2019)年 4月1日
農学応用生命科学(応 用動物生命科)	広島大学大学院 (大学院統合生命科学研究科)	松崎 芽衣	平成 31(2019)年 4月1日
第 11 期			
次世代フォトリクス研 究	徳島大学ポストLEDフォ トリクス研究所 ポストLEDフォ トリクス研究部門	長谷 栄治	令和元(2019)年 10月1日
応用有機化学	広島大学大学院 (大学院工学研究科)	河崎 陸	令和元(2019)年 10月1日
植物生産学	広島大学大学院 (大学院統合生命科学研究科)	田中 若奈	令和元(2019)年 12月1日
材料科学に立脚した物 性物理学	広島大学大学院 (大学院理学研究科)	Kim Sangwook	令和 2(2020)年 2月1日
知能情報工学	山口大学大学院創成科学研究科 工学系学域	相田 紗織	令和 2(2020)年 3月1日

※1：第2期採用 中島祐子 助教については、平成30(2018)年4月から企業との共同研究講座の設置により、共同研究講座准教授として自立した研究活動の基盤を構築したため、平成30(2018)年3月末日をもってコンソーシアム助教を退職した。

※2：第5期採用 真木祥千子 助教については、平成30(2018)年11月から東北大学講師としてキャリアアップを図り、平成30(2018)年10月末をもってコンソーシアム助教を退職した。

※3：第2期採用 若林香織 助教、第4期採用 緒形ひとみ 助教および第5期採用 岩本洋子 助教については、広島大学女性教員ポストアップ候補者として認められ、平成31(2019)年4月1日付でテニユアを取得、准教授となった。

※4：第5期採用 栗田梨津子 助教については、平成31(2019)年4月1日付で神奈川大学外国語学部助教(テニユア)に採用となったため、平成31(2019)年3月末日をもってコンソーシアム助教を退職した。

- ※5：第1期採用 松本舞 助教，中川雅央 助教，Shang Rong 助教，岡部信広 助教の4名は，テニユアトラック期間の終了にあたり審査の結果，令和元（2019）年10月1日付でテニユアを取得した。また，岡部信広 助教については，令和2（2020）年4月1日付で准教授となる予定。
- ※6：第6期採用 小藤智史 助教については，令和元（2019）年12月1日付で東京医科歯科大学講師に採用となったため，令和元（2019）年11月末日をもってコンソーシアム助教を退職した。
- ※7：第2期採用 渋谷周作 助教については，テニユアトラック期間の終了にあたり審査の結果，令和2（2020）年2月1日付でテニユアを取得，准教授となった。
- ※8：第6期採用 廣田聖子 助教については，令和2（2020）年3月1日付で広島大学学術院（原爆放射線医科学研究所）助教（テニユアトラック）に採用となったため，令和2（2020）年2月末日をもってコンソーシアム助教を退職した。
- ※9：第2期採用 原裕貴 助教については，テニユアトラック期間の終了にあたり審査の結果，令和2（2020）年4月1日付でテニユアを取得，講師となる予定。
- ※10：第3期採用 星野由美 助教については，令和2（2020）年4月1日付 日本女子大学講師として採用となったため，令和2（2020）年3月末日をもってコンソーシアム助教を退職予定。
- ※11：第3期採用 梶原浩平 助教については，令和2（2020）年4月1日付で日本赤十字九州国際看護大学准教授に採用となったため，令和2（2020）年3月末日をもってコンソーシアム助教を退職予定。
- ※12：第4期採用 Kumrungsee Thanutchaporn 助教については，広島大学女性教員ポストアップ候補者として認められたため，令和2（2020）年4月1日付で広島大学准教授（テニユアトラック）となる予定。
- ※13：第7期採用 伊森晋平 助教については，令和2（2020）年4月1日付で広島大学学術院（大学院先進理工系科学研究科）准教授（テニユア）に採用となったため，令和2（2020）年3月末日をもってコンソーシアム助教を退職予定。

### 3-3. コンソーシアム教員の育成

#### 3-3-1. 自立的な研究環境確保等について

コンソーシアムを通じた公募により採用された若手研究者は，基本的には各機関のテニユアトラック教員として採用されている。これにより，外部資金雇用の若手研究者等と比較し，各段に安定した身分と共に，研究内容・研究場所の自由を与え，安定性と流動性を同時に満たしている。

テニユアトラック教員として採用されることで，任期中の自立的な環境を得ると共に，業績に応じて将来の安定した職が担保されている。また，PI（Principal Investigator）としての自覚を促し，研究環境を担保することで，外部資金を獲得し自律的に責任をもって研究を遂行することができている。

また，通常の教員としての取扱いをコンソーシアムとして各機関に強く求めており，例えば広島大学においてコンソーシアム教員は，教育研究基盤経費（校費）の面においても，他の助教と同じ取り扱いを受けている。加えて，本事業からのスタートアップ経費の支出により，真に自立的な研究環境の確保を担保した。

あわせて，コンソーシアム教員には積極的なラボローテーションやクロスアポイントメントを推奨しており，各機関・部局との協力体制のもと，これまで数件のラボローテーションの実施に

繋がっている。クロスアポイントメントに関しては、可能性を含めて現在検討中である。また、コンソーシアム教員内での、今後の共同研究に向け相談を開始する事例も発生している。

研究環境状況については、定期的な半期毎の進捗状況の報告を受けている他、各年度の評価で、コンソーシアム実行委員会及び事務局が実情を常時把握している。これらを通して、必要に応じて所属する部局長等とコンソーシアム実行委員会及び事務局との意見交換も実施しており、所属内だけでは解決が困難であることも、コンソーシアムが客観的に関わることで、研究エフォートの確保、研究と教育のバランス、本人のキャリア段階に応じた職務の割振り等を目指している。

### 3-3-2. コンソーシアム教員研修について

コンソーシアム教員は、各大学で通常の助教として採用されるため、各大学で新任教員に対するファカルティディベロップメント (FD) などを通じて、助教としての基礎力を身に着けることになる。例えば、広島大学では、教育の質保証に資するため、新任教員に対して、教員として働くために知っておくべき基本的知識の獲得やスキル向上の機会を提供することを目的として、平成25 (2013) 年10月以降新たに着任する教員に対して、新任教員研修プログラムの20時間以上の受講を必須化し、平成26 (2014) 年4月からプログラムの運用を開始している。広島大学に在籍するコンソーシアム教員は現在まですべてこの対象者であり、随時、新採用教職員研修や大学教育論などを通年で受講している。

加えて、コンソーシアム教員には、産学連携等を通じ幅広い舞台で活躍する能力、異分野と連携する能力が求められている。コンソーシアムとしては、教員の状況をモニタリング (評価) し、必要に応じて情報提供・指導を行い、FD等と相補的な研修を実施する、無駄の少ない継続的な仕組みの構築を目指している。

また、他の組織が主催するセミナー等についても、その目的が合致するものについてコンソーシアムが共催となり、コンソーシアム教員への多様な研修機会を提供している。なお、平成28(2016)年度以降開催の研修については、積極的にTV会議システムを用いて、参加しやすい環境を構築している。

令和元 (2019) 年度

#### □ 2019 年度 広島大学学術講演会「Future of Memory Technology」

(第 32 回コンソーシアム教員研修) (令和元 (2019) 年 6 月 12 日) 広島大学 主催  
世界の半導体技術を牽引する半導体メーカー Micron Technology社のSenior Vice PresidentであるNaga Chandrasekaran, Ph.D.氏により「Future of Memory Technology」と題したメモリ技術及び半導体業界ビジネスの動向についての講演があった。また、それに先立ちMicron Memory Japan技術開発プロセスR&Dプログラム管理担当シニアディレクターの青砥 なほみ氏による「Working in Manufacturing Industry -Message for students and young / female researchers-」と題した講演があり、多国籍企業のトップの人材育成やイノベーション戦略の話を伺い自身を振り返る機会を得た。

#### □ KAKENHI Learning Group (科研費説明会)

(第 33 回コンソーシアム教員研修) (令和元 (2019) 年 7 月 23 日) 広島大学 学術室 主催  
広島大学 学術室研究企画室 URA による、英語での科研費申請を予定している外国人の教員及び研究員向けのセミナーを開催。科研費申請方法から申請書作成のノウハウに至るまで、広島大学で受けることのできる支援について説明を受けた。外国人教員にとって、大変有意義な時間となった。



□ 第34回ライティングセンターセミナー

(第34回コンソーシアム教員研修) (令和元(2019)年9月5日)

広島大学 ライティングセンター 主催

提供された英語論文執筆に集中できる環境の中、本学ライティングセンター助教のアディナ・スタイコフ及びサイエンス・コミュニケーション・フェロー エマ・ブシェのファシリテートによるセッションを体験。アカデミックコミュニティや一般向けに研究成果を発信するノウハウを学んだ。

□ 令和元年度広島大学新任教員研修プログラム(全学FD) 「研究力強化概論」

(第35回コンソーシアム教員研修) (令和元(2019)年12月20日)

広島大学 学術・社会連携室 主催

広島大学の研究力に関する現状を理解し、広島大学が掲げる研究力に関する理念・目標を共有することを目的とした。本学 学術・社会連携室 観山 正見 特任教授 による「理系分野の国の研究動向、拠点形成について」、高等教育研究開発センター 小林 信一 センター長による「文系分野の国の研究動向、文理融合について」の講演を聴き、研究力強化に向けた国の動向や現状を理解した。

□ 令和元年度広島大学新任教員研修プログラム(全学FD) 「研究マネジメント研修」

(第36回コンソーシアム教員研修) (令和元(2019)年12月23日)

広島大学 学術・社会連携室 主催

大学教員として、様々な業務と並行してどのように研究をマネジメントするかについて理解し、学術・社会連携室で行っている研究活動支援や研究者として順守すべき事柄について学ぶことを目標とした。

本学 研究企画担当の難波 博孝 副理事から「研究室マネジメントについて」の講演を受けたのち文系・理系のグループに分かれ、それぞれ主にDRに選定された研究者数名から研究マネジメントについての体験談・アドバイスを伺うとともに意見交換を行った。

### 3-3-3. メンター制度など

各コンソーシアム教員には、2人以上のメンターが配置されている。コンソーシアムとして、企業等における研究経験の豊富な方をコンソーシアムメンターとして雇用し、産学連携を目指したコンソーシアムからの立場で、各コンソーシアム教員に助言・指導を行っている(鈴木榮一郎広島大学客員教授)。加えて、各コンソーシアム教員と同じ専門性を持つ教員(通常は所属する部局のシニア教員)を部局メンターとしている。部局メンターは、分野の特性に応じた指導を行うと共に、身近にいて日々の指導、助言を行う。このコンソーシアムメンターと部局メンターの二人で両面から助言、指導を行うことで、産学連携からの視点を培うと同時に、教員としてのキャリア構築に向けた支援を受けることができる。

また、自立的、主体的に研究を実施するためには、競争的資金の獲得は特に欠かすことができない。このため、コンソーシアム実行委員会および事務局から、個々のコンソーシアム教員の専門分野・特性に応じて日本語及び英語により、情報の提供、科研費等の申請書作成支援を実施している。こうした実行委員会・事務局の支援と、部局メンターの指導により着任直後から競争的資金獲得に向けて動くことが可能となっている。科研費獲得についても積極的に取り組んでおり、令和元(2019)年度は広島大学所属のコンソーシアム教員のうち10名(コンソーシアム離籍者4名を含む)が、新たに研究代表者として採択された。

### 3-4. コンソーシアム教員の評価

コンソーシアム実行委員会が中心となり、コンソーシアムとして毎年の評価を実施している。コンソーシアム教員の着任後1年目、2年目の評価は面談を中心としたものであり、そこで得た情報を元に、より良い研究キャリア構築に向けて、必要に応じて所属（配属）部局への働きかけ、部局メンターとの相談を行っている。

また着任3年後までには中間評価、4年半後までには最終評価を実施し、各教員の所属部局のテニュア移行審査と連携して行った。

#### ◆毎年度評価

1年目評価及び2年目評価は、コンソーシアム教員の現状確認及びモニタリングを主とし、以下に基づき実施している。

評価目的：

コンソーシアム教員の活動状況や研究環境等を把握し、必要に応じて助言を与え、状況を改善する。

評価主体：

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」コンソーシアム実行委員会に評価部会を設置し、実施する。評価部会は、実行委員長が必要と認める者、2名以上で構成する。

評価方法：

- ① 以下の内容について、被評価者が資料を作成し、提出。
  1. 原著論文数、研究発表数、共同研究数、外部資金獲得実績、講義数等の定量的な状況報告
  2. 自己評価（自己アピール）、次年度計画の記述
  3. 上記1に関連してそれぞれの具体的な情報の記述
- ② ①で提出された資料を元に評価者が各教員の現状を把握。
- ③ 評価部会による被評価者への面談。
- ④ 評価部会は運営協議会に評価結果を提出。

評価結果のフィードバック：

評価結果を被評価者、メンターに通知する。必要に応じて被評価者への新たな支援の検討や、各大学、部局に状況の改善について働きかけを行う。

#### ◆中間評価

コンソーシアム教員に対して、着任から3年後までの間に、中間評価を以下のとおり実施している。教員に求めている情報及び基本的な流れは、毎年度評価とほぼ同様の内容である。令和元（2019）年度は、第4期・第5期・第6期採用教員3名について中間評価を実施した。

中間評価の目的：

コンソーシアム教員としての任期の半分を過ぎるにあたり、これまでの教員としての活動状況を元に、コンソーシアムとしての評価を行う。また、各教員のテニュア審査に向けた進捗状況に照らし合わせて、必要に応じて本人に助言を与え、また所属機関及びコンソーシアム等各組織に評価結果を伝えることで、コンソーシアム教員のより良いキャリアに資することを目指す。

評価の実施：

コンソーシアム実行委員会に評価部会を設置し、実施する。評価部会は、実行委員長が必要と認める者、3名以上で構成する。

評価の方法：

コンソーシアム教員が作成した報告書及び事務局が作成したコンソーシアムでの活動実績等を元に、評価部会において面談を実施し評価を行う。

評価項目は、研究、教育、外部資金獲得、社会貢献、コンソーシアム活動の各項目及び総合評価とする。コンソーシアム活動については、外部との共同研究のほか教員研修への参加状況、その他コンソーシアム事業への積極的な関与等をもとに評価する。

評価結果の取扱：

コンソーシアム実行委員長が各評価委員の評価結果を取りまとめる。その評価結果を、コンソーシアム教員、各所属組織長及びコンソーシアム運営協議会にそれぞれ通知、報告を行う。

#### ◆最終評価

コンソーシアム教員に対して、着任から4年半後までの間に、最終評価を以下のとおり実施している。教員に求めている情報及び基本的な流れは、毎年度評価とほぼ同様の内容である。令和元（2019）年度は、第2期・第3期採用教員3名について最終評価を実施した。

最終評価の目的：

テニュアトラック期間が満了するまでに、コンソーシアム教員の活動状況や研究実績等の評価し、テニュアを付与するかどうかの最終審査を実施する。なお、最終審査の時期は、所属（配属）先の規則等に定められた時期によるものとする。

評価の実施：

コンソーシアム実行委員会に評価部会を設置し、実施する。評価部会は、実行委員長が必要と認める者、3名以上で構成する。

評価の方法：

コンソーシアム教員が作成した報告書及び事務局が作成したコンソーシアムでの活動実績等を元に、評価部会において面談を実施し評価を行う。

評価項目は、研究、教育、外部資金獲得、社会貢献、コンソーシアム活動の各項目及び総合評価とする。コンソーシアム活動については、外部との共同研究のほか教員研修への参加状況、その他コンソーシアム事業への積極的な関与等をもとに評価する。

評価の取扱：

コンソーシアム実行委員長が各評価委員の評価結果を取りまとめる。その評価結果を、コンソーシアム教員、各所属組織長及びコンソーシアム運営協議会にそれぞれ通知、報告を行う。

## 4. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム

### 4-1. 長期インターンシップ生の募集

イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラムでは、理工農系、医療系、人文社会系の枠組みにとらわれず、若手研究者が異なる領域にも果敢に挑戦し、社会を変革する意識と情熱を持った人材を育てることを目指している。その一環として、若手研究者が実際の企業や社会の課題解決に貢献しつつ、実践的な能力の養成とキャリアオプションの拡大を図ることを目的として、長期インターンシップ派遣制度を設けている。

平成31（2019）年度からは、本事業への補助金が終了したことに伴い、インターンシップ受入企業等からの支援もお願いしながら、派遣先のリスト化を図った。

また、コンソーシアムとして共通の募集要項を作成し、運営協議会で承認の後、コンソーシアム全体として公募を開始した。

### 第10-11期（令和元（2019）年度）

【募集期間】平成31（2019）年4月1日（月）

～令和元（2019）年11月30日（土）

#### 【募集対象】

（代表実施機関）広島大学、

（共同実施機関）山口大学、徳島大学、

（連携機関）岡山大学、島根大学、鳥取大学、愛媛大学、香川大学、高知大学、鳴門教育大学、岐阜大学、国立遺伝学研究所、県立広島大学、高知工科大学、広島市立大学、広島国際大学、立命館大学に在籍中の博士課程（博士課程前期を除く。）の学生あるいは博士課程（博士課程前期を除く。）修了後5年程度以内の任期付研究者。

大学院 博士課程後期 ポストドク対象

文部科学省 若手研究者育成のコンソーシアムの構築事業(次世代研究者育成プログラム) 企業を巻き込んだ協働プラットフォーム(HIRAKU)

本事業を担う協働プラットフォーム(HIRAKU) 運営事務局  
Tel: 082-424-4564 E-mail: wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp  
http://www.hiraku-hiroshima-u.ac.jp/hiroshima/youngster\_internship/

**長期インターンシップ参加者募集**  
Call for Applications for Long-Term Internship  
(University Wide Courses for Graduate Students)

国内外の産産企業、公的機関、非営利団体などへの長期(1ヶ月程度以上)インターンシップを通じ、実務の企業や社会が抱える課題の解決やイノベーション創出を目指し、同時にあなたの実践的能力の養成やキャリア形成をサポートします！

また、人文社会学系から理工工学系、医学系まで広島大学の全研究科に対応する幅広い企業・団体などから、あなたの未来につながる場所でインターンシップに参加することができます！

**募集対象**  
博士課程後期学生 (Doctorates)  
ポストドクター (Postdocs)

**企業からの支援等**  
派遣先企業による  
(募集企業リスト参照)

研究者が活躍する舞台は大学だけではなく、社会の多様な場面で活躍するため、ぜひ長期インターンシップを利用して、自分のキャリアの幅を広げてみませんか？

**お問合せ先**

広島大学及び連携機関(※)所属の若手研究者  
グローバルキャリアデザインセンター (若手研究者人材育成担当)  
TEL: 082-424-4564 E-mail: wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp  
※連携機関の詳細については、HIRAKUをご覧ください。

山口大学所属の若手研究者  
山口大学 大学研究推進機構研究推進総局URA室 コンソーシアム担当  
TEL: 083-933-5255

徳島大学所属の若手研究者  
徳島大学 研究支援・産官学連携センター 研究推進部門  
TEL: 088-656-9759

## 4-2. 長期インターンシップの派遣実績

### 4-2-1. 令和元（2019）年度 第10期派遣者 ※学年は派遣時

	名前	所属		性別	国籍	学年 /職名	派遣先	派遣期間	審査 状況
1	Mohamad Basel Al SAWAF	広島大学	グローバル キャリアデ ザインセン ター（特別 研究員）	男	シリア	PD	日本工営株式会 社	2019/6/17 ～ 2019/7/17	広島大学 (2019/6/14)
2	林 兼輔	岐阜大学	大学院工学 研究科 電子情報シ ステム工学 専攻	男	日本	D2	国立研究開発法 人 物質・材料研 究機構(NIMS)	2019/6/24 ～ 2019/8/31	広島大学 (2019/5/16)
3	周 密	広島大学	大学院教育 学研究科 教育学習科 学専攻	女	中国	D3	UNITAR 広島事 務所	2019/7/30 ～ 2019/9/30	広島大学 (2019/7/26)
4	楊 駒	広島大学	グローバル キャリアデ ザインセン ター（特別 研究員）	女	中国	PD	JICA 中国	2019/8/5 ～ 2019/9/20	広島大学 (2019/8/1)
5	Dhongade Siddhant	徳島大学	先端技術科 学教育部 システム創 生工学専攻	男	インド	D2	国立研究開発法 人 産業技術総 合研究所つくば センター	2019/8/20 ～ 2019/9/30	徳島大学 (2019/7/9)
6	安部 庄剛	徳島大学	先端技術科 学教育部 物質生命シ ステム工学 専攻	男	日本	D1	株式会社ファー マフーズ	2019/9/9 ～ 2019/10/4	徳島大学 (2019/7/9)
7	中田 裕之	広島大学	大学院理学 研究科 化学専攻	男	日本	D2	株式会社堀場製 作所	2019/9/24 ～ 2019/10/25	広島大学 (2019/9/24)

### 4-2-2. 令和元（2019）年度 第11期派遣者 ※学年は派遣時

	名前	所属		性別	国籍	学年 /職名	派遣先	派遣期間	審査 状況
1	鄭 西吟	広島大学	大学院文学 研究科 人文学専攻	女	中国	D1	公益財団法人 平山郁夫美術館	2019/10/2 ～ 2019/11/29	広島大学 (2019/9/7)
2	ZHANG LINGHAN	広島大学	グローバル キャリアデ ザインセン ター（特別 研究員）	女	中国	PD	一般財団法人 こゆ地域づくり推 進機構	2019/10/21 ～ 2019/11/22	広島大学 (2019/10/21)
3	山中 治	広島大学	グローバル キャリアデ ザインセン ター（特別 研究員）	男	日本	PD	トヨタ自動車株式 会社	2019/11/1 ～ 2019/12/26	広島大学 (2019/10/2)

	名前	所属		性別	国籍	学年 /職名	派遣先	派遣期間	審査 状況
4	SHRESTHA AMIT	広島大学	大学院先端 物質科学研究科 量子物質科学専攻	男	ネパ ール	D2	日本製鉄株式会 社	2019/11/1 ～ 2019/11/29	広島大学 (2019/10/7)
5	熊代 宗弘	広島大学	大学院理学 研究科 物理学専攻	男	日本	D1	コニカミノルタ株 式会社	2020/1/20 ～ 2020/3/19	広島大学 (2019/12/9)
6	李 受ミン	広島大学	大学院教育 学研究科 教育学習科学専攻	女	韓国	D1	UNITAR 広島事 務所	2020/1/23 ～ 2020/3/13	広島大学 (2020/1/10)
7	エン 智群	広島大学	グローバル キャリアデザ インセン ター(特別 研究員)	男	中国	PD	丸善製薬株式会 社	2020/2/3 ～ 2020/3/3	広島大学 (2020/1/29)
8	RAKHIMUZZA MAN MD	広島大学	グローバル キャリアデザ インセン ター(特別 研究員)	男	バング ラデシ ユ	PD	国立遺伝学研究 所	2020/2/4 ～ 2020/3/31	広島大学 (2020/1/27)
9	PAL PRATIBHA	広島大学	大学院工学 研究科 機械物理工 学専攻	女	インド	D3	昭和電工株式会 社	2020/2/14 ～ 2020/3/13	広島大学 (2020/2/10)
10	太田 雅士	徳島大学	薬科学教育 部 創薬科学専 攻	男	日本	D1	日本テクノサービ ス株式会社	2020/2/21 ～ 2020/3/19	徳島大学 (2019/12/13)

## 5. 成果報告会

### 5-1. 第9回成果報告会

【日時】令和元（2019）年8月8日（木）13:00～15:30

【会場】山口大学 大学会館2F会議室（吉田キャンパス）

【参加者】41名

◆開会挨拶 山口大学 理事・副学長 堀 憲次

◆テニユアトラック教員による着任報告（広島大学，山口大学）

(1) 稲見 華恵／広島大学大学院 助教（宇宙科学センター）

(2) 石井 治之／山口大学大学院

創成科学研究科（工学系学域）准教授

(3) 高島 哲也／広島大学大学院 助教（大学院社会科学研究所）

(4) 松崎 芽衣／広島大学大学院 助教

（大学院統合生命科学研究科）

(5) 藤井 雅史／広島大学大学院 助教

（大学院統合生命科学研究科）

◆長期インターンシップ派遣者による報告（広島大学，徳島大学の博士後期課程学生）

(1) 関 俊剛（広島大学ナノデバイス・バイオ融合科学研究所 研究員）

受入機関：矢崎総業株式会社技術研究所

(2) 吉川 遼（広島大学大学院先端物質科学研究科 D3）

受入機関：日本電信電話株式会社NTT先端集積デバイス研究所

(3) 阿部 夏希（広島大学大学院教育学研究科 D3）

受入機関：株式会社ベネッセホールディングス ベネッセ教育総合研究所

(4) 笹尾 知世（徳島大学 人と地域共創センター 助教）

受入機関：北欧研究所

◆閉会挨拶（次回開催校） 徳島大学 理事・副学長 佐々木卓也



## 5-2. 第10回成果報告会

【日 時】令和2（2020）年2月7日（金）16：00～17：00

【会 場】徳島大学（常三島キャンパス）

産官学連携プラザ3階 日亜ホール

【参加者】39名

◆開会挨拶 徳島大学理事（研究担当）・副学長 佐々木 卓也

◆テニュアトラック教員着任報告

(1) 河崎 陸 / 広島大学大学院 助教（大学院工学研究科）

(2) 田中 若菜 / 広島大学大学院 助教

(大学院統合生命科学研究科)

◆長期インターンシップの成果報告

長期インターンシップ実施対象者5名による報告，受入機関の方からの報告  
(代読やビデオメッセージ等も一部含む。)

(1) 田中 博之（広島大学大学院理学研究科 D2）

受入機関：株式会社 堀場製作所

(2) 鄭 西吟（広島大学大学院文学研究科 D1）

受入機関：公益財団法人 平山美術館

(3) 山中 治（広島大学グローバルキャリアデザインセンター 特別研究員）

受入機関：トヨタ自動車株式会社

(4) Siddhant Dhongade（徳島大学大学院先端技術科学教育部 D2）

受入機関：国立研究開発法人 産業技術総合研究所

(5) 安部 庄剛（徳島大学大学院先端技術科学教育部 D1）

受入機関：株式会社 ファーマフーズ

◆閉会挨拶（次回開催校） 山口大学 理事・副学長 堀 憲次





## 6. DC や PD が積極的に関与する取組

### 6-1. 未来博士3分間コンペティション2019

博士課程後期の学生が、3分間の限られた時間内に自身の研究ビジョンや魅力を、中学生、高校生を含む一般聴衆にもわかるように伝える。学生のコミュニケーション力の向上を図ると同時に社会における博士人材と博士研究に対する肯定的な理解の向上につなげる。

【日 時】令和元（2019）年9月14日（土）13:00～17:30

【場 所】東広島芸術文化ホール くらら 大ホール

【参加者】270名



13:00 開会式

開会挨拶：広島大学理事・副学長（社会産学連携担当） 河原 能久

13:05 未来を拓く！おもしろ研究最前線

「若手研究者の未来を拓く取組」

広島大学理事・副学長（大学改革担当）相田 美砂子

「環境に優しい方法で、価値ある物質をつくるには…」

徳島大学 大学院医歯薬学研究部 特任助教 Sangita Karanjit

「トビはタカを産めるか？」

広島大学大学院 助教（大学院統合生命科学科）中村 隼明

13:20 「未来博士へのエール」

東北大学名誉教授、前総合科学技術・イノベーション会議常任議員 原山 優子

13:30 3分間で未来を拓く！プレゼンテーション

（英語部門／日本語部門）

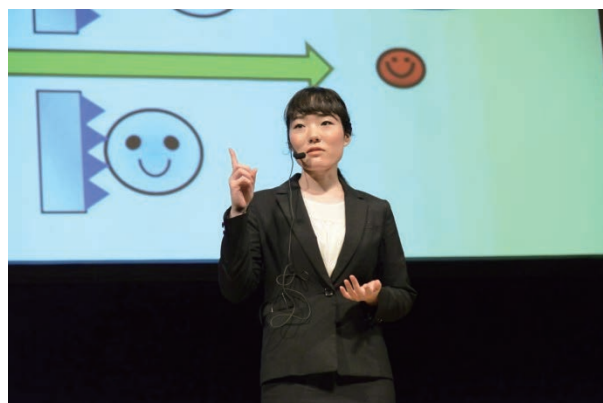
15:30 休憩

15:40 1枚で未来を拓く！ポスターセッション

16:40 審査発表・表彰式

17:20 閉会式

閉会挨拶：徳島大学理事・副学長 佐々木 卓也





◆審査結果

賞名	受賞者		タイトル
最優秀賞	広島大学	梅原 華子	細胞をコントロールするチタン薄膜
グローバルチャレンジ賞	広島大学	Azusa Matsumoto Reardon	Voices of Syrian Refugee Camp
優秀賞（英語部門）	広島大学	Vu Ha Thu	Encouraging farmers to adopt organic fertilizer: Can experience sharing substitute for subsidy?
優秀賞（日本語部門）	広島大学	田中 美樹	Improve the “Quality of Life” . 脳梗塞患者の QOL 低下を防ぐには
オーディエンス賞 （英語部門）	広島大学	Jade Dhapnee Zarate Compendio	Are there still wild chickens in the Philippines?
オーディエンス賞 （日本語部門）	広島大学	梅原 華子	細胞をコントロールするチタン薄膜
企業賞/大塚賞	徳島大学	Junhel Dalanon	PAIN : The most destructive global problem can be solved by sleeping?
企業賞/コニカミノルタ賞	愛媛大学	樋本 一晴	遠方銀河のバースト的な星形成活動の起源
企業賞/シュプリンガー・ ネイチャー賞	広島大学	Jade Dhapnee Zarate Compendio	Are there still wild chickens in the Philippines?
企業賞/中外テクノス賞	愛媛大学	巖 筵景	いつでも学び、どこでも教室
企業賞/戸田工業賞	山口大学	崔 亮秀	バッテリーの高性能化 ～イオンを運ぶプラスチックデザイン～
企業賞/JSW 日本製鋼所賞	広島大学	田中 美樹	Improve the “Quality of Life” . 脳梗塞患者の QOL 低下を防ぐには
企業賞/マイクロン賞 （英語部門）	広島大学	Azusa Matsumoto Reardon	Voices of Syrian Refugee Camp
企業賞/マイクロン賞 （日本語部門）	徳島大学	月本 準	酵素を改造してクリスタルを生じない安全な 薬を作る
企業賞/マツダ賞	徳島大学	大橋 栄作	生物を超える分子の匠を目指せ！

## 6-2. 第4回課題提案型ワークショップ

若手研究者と社会をつなぎ、企業や地域社会の課題解決に貢献するためのマッチング事業の一環として開催した。社会が抱えている実際の課題やニーズを理解し、それらの課題解決について提案企業や異分野の学生・若手研究者と一緒に考えていくワークショップ。課題解決に向けたプロセスの中で、自分の専門性にとられない柔軟な発想力と応用力を身につけることを目的とし、提案企業1社からのテーマに基づき、計8回のワークショップを通じて解決策をチームで練り上げ、最終回にその成果を公開発表した。広島大学大学院共通科目「イノベーション演習」の一環として行い、履修生6名および特別研究員（ポスドク）6名、聴講生1名が、6名前後の企業参加者と交流しながらワークショップを進めた。



### ◆課題提案

「どうしたらオンライン通販の売上を上げられるか？」

課題提案企業 株式会社ヒロツク

### ◆スケジュール

第1回	ガイダンス	10月2日(水)14:35-17:50 (会場:広島大学東広島キャンパス)
第2回	フィールドワーク	10月9日(水)14:30-18:30 (会場:株式会社ヒロツク本社工場)
第3回	検討ワークショップ	10月23日(水)14:35-17:50 (会場:広島大学東広島キャンパス)
第4回	検討ワークショップ	10月30日(水)14:35-17:50 (会場:広島大学東広島キャンパス)
第5回	検討ワークショップ	11月6日(水)14:35-17:50 (会場:広島大学東広島キャンパス)
第6回	検討ワークショップ	11月13日(水)14:35-17:50 (会場:広島大学東広島キャンパス)
第7回	検討ワークショップ	11月20日(水)14:35-17:50 (会場:広島大学東広島キャンパス)
第8回	成果発表会	11月27日(水)14:35-17:50 (会場:広島大学東広島キャンパス)

#### ◆成果発表の内容

グループ 1: 『FuwaFuwa』チームは、外国人留学生を対象として、主に三つのことを提案した。① 既存の留学生イベントを活用し、佃煮を広く認知させる啓蒙活動、② 佃煮をソウルフードとして故郷を回想しながら頑張る広島大学生を主人公とした短編ムービーを作成すること、③ 短編ムービーを含むウェブサイトに誘導する QR コードを掲示した配布グッズ(葉, キーホルダーなど)作成, などを通して、まずは「ヒロツクの佃煮」に興味を惹くことを目指した。



グループ 2: 『Innovators』チームは広島大学とヒロツクが手を組んで、ビジネス展開することを目指したアイデアを提案した。20年大きな更新のないウェブサイトを改善する案として、自分たちでオリジナルのデモサイトを作成し、「クールなサイト」構築を提案した。オンラインマーケティングの鉄則として、サイトに訪れたユーザーが、真っ先に「何の商品か」「何が入っているのか」がすぐわかる状態にしてあること、さらにその場で購入できることが重要であると説明した上で、商品の紹介だけではない人気商品のレシピ紹介, SNS 接続がわかりやすいアイコン表示, ブログを通じた消費者との接点・声が見える工夫などを提案。また, PR 動画を作成することで, ヒロツクの商品をより魅力的に示せる仕掛けを考えた。

グループ 3: 『GIFTS』チームは、日本のお歳暮やお中元などの季節の催事ごと・贈りあう習慣に着目すると同時に、これまでのアンケート結果で、佃煮は自分で購入するよりも「もらう」方が嬉しいのではないかという仮説を立て、プレゼント購入を中心とした提案展開をした。さらに、以前の研究や実際の事例を示すことでパッケージデザインの重要性を説き、コストをかけずにロゴやパッケージデザインを改善する提案として、クリスマスギフトをイメージしたプロトタイプを作成して紹介した。将来的にはラッピング会社や印刷会社と手を組んでいくことを提案した。

その後、最終発表会までの過程について各チームが発表し、ワールドカフェ形式で質疑応答を行った。ヒロツクの社員の方々も交え、闊達な議論が交わされた。提案企業からは、「機知に富んださまざまな提案を得られたことに感謝している。これで終わりではなくここが起点であり、受け取った提案をどのように継続し展開していけるかが自分たちの課題だ。」との総評を得た。

### 6-3. ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム

(The 16th Nano Bio Info Chemistry Symposium)

融合領域研究の英語による口頭発表で構成するナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウムを開催している。

英語による口頭発表をした学生のうち、一般参加者の投票により、The Best Student Presentation Award と Student Award を授与している。

【日 時】 令和元（2019）年12月7日（土）、8日（日）

【場 所】 広島大学学士会館レセプションホール（東広島キャンパス）

【一般講演】 20件（内：学生の発表17）

【参加者】 64名（学生44名、一般20名）

【学生賞】 参加者（学生は除く）の投票により、上位2名に The Best Student Presentation Award が、2名に Student Award が授与された。

The Best Student Presentation Award (2名)

Kaiyu Mikami (M2)

“Synthesis of Novel Silver Nanocluster Protected by  $\text{Ag}_3\text{Cu}$  Planar Complex Units”

Kentaro Harada (M1)

“Synthesis and Molecular Recognition of Size-regulable Hemi-carcerand”

Student Award (2名)

Hideya Tanaka (M2)

“Copper-Catalyzed Arylstannylation of Arynes in a Sequence”

Yoshitaka Kimura (M1)

“Towards Isolation of Boron-Containing *N*-Heterocyclic Carbene Complexes”



## 7. コンソーシアム人材セミナー

コンソーシアム人材セミナーは『未来を拓く地方協奏プラットフォーム』の取組および「大学院共通科目（高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント）」の一環として開催している。

セミナーは、「グローバル化と科学技術の進展に伴い、社会における人材ニーズも時代とともに変化している中、多様な業界の関係者や職業に従事されている方々からの講義やディスカッションを通じて、研究経験を有する専門性の高い人材が活躍できるキャリアの選択肢と必要な能力や資質等を理解する」ことを目的としている。

様々な業界でのキャリアに焦点をあて、大学院での研究経験を活かしつつ新たなキャリアに挑戦する意義や魅力について紹介する。



回	開催地	日程	講演テーマ	講師
第 73 回	広島	令和元(2019)年 6月12日(水) 14:35~16:05	ものづくりと技術ー日本鉄鋼業からー	日本製鉄株式会社 顧問 高橋 学 氏
第 74 回	広島	令和元(2019)年 6月19日(水) 14:35~16:05	専門分野の経験を元にブルー オーシャンで活躍~製薬企業で 築くキャリアパス	アストラゼネカ株式会社 人事総務本部 タレ ント・新卒採用部 眞野 隆一 氏
第 75 回	広島	令和元(2019)年 6月26日(水) 14:35~16:05	通信社の社会的役割	一般社団法人共同通信社 人事グループ採 用担当部長 高橋 宏一郎 氏
第 76 回	広島	令和元(2019)年 7月3日(水) 14:35~16:05	集中と非選択	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総 合研究機構 西日本農業研究センター企画 部長 亀山 眞由美 氏
第 77 回	広島	令和元(2019)年 7月10日(水) 14:35~16:05	SDGs 時代における開発コンサル タントの可能性	株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング 保健・医療分野 主任コンサルタント 兼 営業 部課長 兼 事業戦略室課長 松原 彩子 氏
第 78 回	広島	令和元(2019)年 7月24日(水) 14:35~16:05	なぜ博士で商社なのか?	三井物産株式会社 中国支社 支社長補佐 赤井 力 氏 三井物産株式会社 ヘルスケア事業部マネー ジャー 福菌 嵩 氏
第 79 回	広島	令和元(2019)年 7月31日(水) 14:35~16:05	半導体・FPD 分野のナノ薄膜塗 布技術を極める	タツモ株式会社 顧問 上田 修治 氏
第 80 回	広島	令和元(2019)年 8月7日(水) 14:35~16:05	持続的な食糧生産に繋がる技 術開発	日本ハム株式会社 中央研究所 研究員 西山 泰孝 氏
第 81 回	広島	令和元(2019)年 12月4日(水) 14:35~16:05	素材メーカーにおける技術開発 とキャリア	昭和電工株式会社 人事部 人材開発グル ープ マネージャー 黒田 靖 氏 昭和電工株式会社 生産技術部プロセ ス・ソリューションセンター 技術開発 ユニット プロセスグループ 品川 紗織 氏

回	開催地	日程	講演テーマ	講師
第 82 回	広島	令和元(2019)年 12月11日(水) 14:35~16:05	大学教員から企業研究開発職へ	丸善製薬株式会社 技術開発本部 西谷 洋輔 氏
第 83 回	広島	令和元(2019)年 12月18日(水) 14:35~16:05	事件記者の宿命	株式会社テレビ新広島 代表取締役社長 箕輪 幸人 氏
第 84 回	広島	令和 2(2020)年 1月8日(水) 14:35~16:05	博士号取得者がつなぐ学术界と 産業界～技術開発マネジメントと いう業務～	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術 総合開発機構 NEDO 人事部 人事課 課 長代理 三枝 俊介 氏
第 85 回	広島	令和 2(2020)年 1月15日(水) 14:35~16:05	シンクタンク・コンサルティング業 界におけるキャリア形成	株式会社 NTT データ経営研究所 人事部 長 野々山 清 氏
第 86 回	広島	令和 2(2020)年 1月22日(水) 14:35~16:05	博士の働き方のとある一例:金融 分野での仕事	みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会 社 フィナンシャルエンジニア 武田 直幸 氏
第 87 回	広島	令和 2(2020)年 1月29日(水) 14:35~16:05	IoT×AI 時代とメモリ～これから の「働く」を考える	マイクロメモリ ジャパン合同会社 Manufacturing Engineering 部 Director 金子 幸治 氏
第 88 回	広島	令和 2(2020)年 2月5日(水) 14:35~16:05	企業における研究活動とは?～ 協和発酵バイオでの 13 年間で 振り返って～	協和発酵バイオ株式会社 生産技術研究所 培養G 主任研究員 倉都 将宏 氏
第 89 回	山口	令和元(2019)年 7月4日(木) 12:50~14:20	技術系社員の海外駐在経験談 ～グローバル化時代を生き抜く 研究者・技術者ケーススタディ	安川電機みらい館館長 岡林 千夫 氏
第 90 回	徳島	令和元(2019)年 7月18日(木) 16:00~18:00	イノベーションクラブ講演会	島根大学医学部生命科学講座 教授/ PuREC 株式会社 取締役 松崎有未 氏 島根大学医学部病態生化学講座 教授/ 株式会社 mAbProtein 代表取締役 浦野 健 氏
第 91 回	徳島	令和元(2019)年 11月22日(金) 16:00~18:30	2019 年度 徳島大学産業院セミナー	メディアドゥホールディングス代表取締役/ 産業院紹聘教授 藤田恭嗣 氏 X-tech 株式会社代表取締役 CEO/ 産業院 客員教授 西条晋一 氏 株式会社ジェイテクト研究開発本部 FFR 部 部長/ 産業院紹聘教授 山本吉二 氏 ミヤリサン製薬株式会社東京研究部 部長/ 産業院紹聘教授 岡 健太郎 氏
第 92 回	徳島	令和 2(2020)年 3月18日(水) 14:00~15:45	日本学術振興会(JSPS)特別研 究員説明会	<新型コロナウイルス感染症対策に関する徳 島大学の基本方針に基づき中止>

◆第73回コンソーシアム人材セミナー（広島）：日本製鉄株式会社

【日 時】 令和元（2019）年6月12日（水）14：35～16：05

【場 所】 広島大学総合科学研究科 K209講義室（東広島キャンパス）

【参加者】 32名

【開催報告】

講師の高橋 学氏は、大学院で物理（原子核物理）を研究、入社後は一貫して研究開発に従事し、主に、自動車用高強度鋼板の開発実用化に注力してこられました。

セミナー冒頭では、「ものづくりが日本人の生活の源泉である」ことを説き、日本の鉄鋼業や同社の研究開発についてのお話がありました。また、アカデミックの世界と企業とを比較しながら、企業にとっての財産は「人」であり、一人の優れた力のみではなく、「総合力」が求められていること、企業が期待する資質の中でも、「原理原則に基づいて現象を理解し、新たな分野に挑戦しつづけるマインド」や「人に説き聞かせるコミュニケーション力」が重要であること、そして同社の自動車研究開発現場を例にとり、各社員が機械・材料・物理・化学・生物などそれぞれの専門家であり、多様な活躍の場があることを示されました。約1時間の講演の最後では、高橋氏より聴講学生へ次のメッセージをいただきました。『次の世代を生きる人々が日本国内で充実した生活を送り続けるために、技術とものづくりで、私たちの国の価値を永続的に保持し続けていってほしい。焦らず、着実に、自らの考えを具現化してほしい。』

セミナー最後に設けた30分のディスカッションでは、ライフサイクルアセスメント（LCA）について触れ、「製品の製造から廃棄までの総合負荷としてCO2を考慮する必要があること」について全員で考える時間となりました。

◆第74回コンソーシアム人材セミナー（広島）：アストラゼネカ株式会社

【日 時】 令和元（2019）年6月19日（水）14：35～16：05

【場 所】 広島大学総合科学研究科 K209講義室（東広島キャンパス）

【参加者】 37名

【開催報告】

講師の眞野氏はアストラゼネカ株式会社へ入社後、営業職（MR）の経験を積み、現在は、製薬会社にイノベーションを起こすべく、ダイバーシティ&インクルージョンを掲げ人材育成に取り組んでいる同社にて、新卒採用担当として活躍されています。

セミナーでは、はじめに、製薬業界の現状や同社の企業理念・事業内容・人材育成への取り組みについて触れ、医療用医薬品に注力してきた同社内の様々な働き方(職種)についてお話いただきました。

セミナー中盤のワークセッションでは、聴講者が自身の専門スキルや内面の強みについて考え、その強みをどの職種で活かせるか等について積極的な意見交換をしました。また、終身雇用制度の限界が近づいている中、ポータブルな経験・スキルを蓄えながら、専門性が一貫していることが、今後「自分の市場価値を上げ」、「生きたい生き方を選べる」ことへと繋がるというお話がありました。

セミナー全体を通して、眞野氏が経験してこられた営業職（MR）について詳しくご説明いただきましたが、最後に、「自分の可能性を狭めず、広い視野で自分の適正に合った仕事見つけてください」とのメッセージで締めくくられました。

◆第75回コンソーシアム人材セミナー（広島）：一般社団法人共同通信社

【日 時】 令和元（2019）年6月26日（水）14：35～16：05

【場 所】 広島大学総合科学研究科 K209講義室(東広島キャンパス)

【参加者】 31名



## 【開催報告】

講師の高橋氏は、読売新聞記者を経て共同通信社に入社されました。同社社会部で、東京地検特捜部、皇室等をご担当、そして、東日本大震災後には福島支局長、仙台支社編集部長を務められ、震災原発事故報道を指揮、現在は人事グループ採用担当部長としてご活躍されています。

セミナー前半では、様々な過去の記事を例に挙げながら、同社について、そして様々な報道機関の黒衣的な立場である通信社の役割についてお話しいただきました。また、一つの記事を例に、記事に関わっている同社の9職種についても紹介いただき、多様な人材を求めていることをご説明いただきました。

セミナー後半では、若い方にもニュースを読んでもらうための「多メディア展開」についてご紹介いただき、様々なツールが身近にあることを改めて認識しましたが、高橋氏からは、「スマホで自分の興味のあるものだけを見るのではなく、是非、世の中を総覧できる“新聞”でニュースを取り入れて欲しい」というメッセージをいただきました。

本日のセミナーを踏まえ、私たちはなぜニュースを読むのか、私たちにとってニュースとは何なのだろうか、ということを考えるきっかけとなりました。

## ◆第76回コンソーシアム人材セミナー（広島）：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

【日 時】 令和元（2019）年7月3日（水）14：35～16：05

【場 所】 広島大学総合科学研究科 K209講義室(東広島キャンパス)

【参加者】 33名

## 【開催報告】

講師の亀山氏は、大阪大学薬学部卒業後財団法人サントリー生物有機科学研究所に就職され、生理活性物質に関する研究に従事されました。科学技術振興事業団(現JST)のポスドクを経て、農林水産省に入省。独立行政法人 食品総合研究所に19年間在籍後、現在は農研機構 西日本農業研究センターの企画部長として活躍されています。

セミナー冒頭では、同機構についての概要や研究領域についてお話がありました。研究目標として「中山間地域農業を元気に」を掲げる西日本農業研究センターでは、日本の農業発展に向けて様々な研究が行われており、同センターの具体的な研究成果のうち、一例として「トバテン(飛ばないテントウムシ)」による害虫防除法を紹介していただきました。また、亀山氏の歩んでこられたキャリアやこれまでの研究内容についてもお話しいただきました。

セミナー最後に聴講学生へ向けて、『自分のやりたいことを「選択」し、優先順位をつけて行動する「集中」も重要である一方で、「非選択(選択しないこと)」によって視野が広がることもある。周囲の意見に耳を傾け、幅広く情報収集し、自分のやりたいことを見極めていけば、自ずと自分の進路が選択できるはず。』というメッセージをいただきました。

## ◆第77回コンソーシアム人材セミナー（広島）：株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング

【日 時】 令和元（2019）年7月10日（水）14：35～16：05

【場 所】 広島大学総合科学研究科 K209講義室(東広島キャンパス)

【参加者】 37名

## 【開催報告】

講師の松原氏は一橋大学大学院 社会学研究科を修了(修士号取得)後、開発コンサルティング企業での業務を経て、米国ハーバード公衆衛生大学院に留学され、国際保健・人口学分野での修士号を取得されました。その後、システム科学コンサルタント株式会社、現在の株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング(KRC)に保健医療分野のコンサルタントとして入社、ご活躍され、

現在では営業企画部にて営業，事業推進に関する対外支援，他社とのネットワーキング，新規顧客開拓などに従事されています。

セミナー冒頭では，開発コンサルタントは，援助実施機関(国際機関やJICA等)が発注するプロジェクトを受注・契約し，実際に開発途上で計画立案・設計，技術移転等を行う仕事であるところを紹介していただきました。KRCは総合力や専門力を活かして，教育・雇用，インフラ調査，保健・医療など多くの海外事業を手掛けられています。フィリピンやモンゴルなどで行われた事業を例としてご説明いただきました。

最後に，海外で仕事を行う開発コンサルタントには，心身ともにタフであること，環境適応能力，異文化受容力，コミュニケーション能力などが求められるが，仕事をする中で，世界中の国を知ることができる，一国の重要な政策や事業の一端を担えることなどのやりがいを感じる魅力ある仕事だと話されました。

◆第78回コンソーシアム人材セミナー（広島）：三井物産株式会社

【日 時】 令和元（2019）年7月24日（水）14：35～16：05

【場 所】 広島大学総合科学研究科 K209講義室(東広島キャンパス)

【参加者】 43名

【開催報告】

講師の赤井氏は広島大学経済学部を卒業後，三井物産株式会社に入社，海外勤務で様々なキャリアを積み，現在，中国支社(広島)にて支社長補佐として活躍されています。オンラインで登場の福菌氏は名古屋大学大学院理学研究科にて博士号を取得し，同社に入社，現在，医療情報サービス事業担当，医療機器事業担当として活躍されています。

セミナー冒頭で，赤井氏から同社の概要についてお話があり，金属分野や機械・インフラ，生活産業等の幅広い様々なものに対して，マーケティングや事業開発を行う総合商社であると紹介いただきました。続いて福菌氏から，ご自身が手掛けられた事業や博士課程の学生に求められる資質についてお話いただき，同社では事業の創出から成長まであらゆる部分に携わることができると説明がありました。福菌氏はヘルスケア領域を専門とされていますが，博士課程で培った考え方が様々な場面で活かされていると話されました。そして，「いろいろな人と話をすることで自分の研究と社会との関係について知見を広げ，その上で自分のやりたいことは何なのか考えてください」とメッセージをいただきました。

最後に，キャリア観について受講生間で意見交換を行い，その後，オンラインで参加の同社人事部新卒採用担当の和田氏を交えてディスカッションが行われ，今後のキャリア形成について改めて考える機会となりました。

◆第79回コンソーシアム人材セミナー（広島）：タツモ株式会社

【日 時】 令和元（2019）年7月31日（水）14：35～16：05

【場 所】 広島大学総合科学研究科 K209講義室(東広島キャンパス)

【参加者】 30名

【開催報告】

講師の上田氏は福岡工業大学工学部を卒業後，松下電器産業株式会社に就職され，主として金属の超精密微細加工に従事してこられました。同社の理事・生産技術研究所所長，パナソニック(株)の理事・ものづくり研修センター所長を経て，現在ではタツモ株式会社の顧問としてご活躍されています。

セミナー冒頭で，タツモ(株)の会社概要についてお話があり，半導体関連，液晶関連，電気メッキ装置，金型・樹脂成型の各事業について紹介していただきました。

その後、半導体、FPD(フラットパネルディスプレイ)の市場規模や構造、製造プロセスについての説明に続き、製造プロセスに用いられる塗布技術について、同社で開発されている液晶CF(カラーフィルター)や有機半導体の結晶化を用いる方法を例として紹介していただきました。

講演の最後に、「興味本位でサイエンスを探索するのではなく、研究成果の価値を見定めることを意識して日々の研究に取り組んでください。また、大きな成果を生み出すために人と連携する力をもつことが大事です。」というメッセージをいただきました。

講演後に行われたディスカッションでは、研究を進めるうえでパートナーとの連携やマネジメントの方法とその留意点について、参加者同士で意見交換を行い、その後、上田氏からコメントがあり、コミュニケーションや情報共有等の有用性について改めて考える機会となりました。

◆第80回コンソーシアム人材セミナー(広島):日本ハム株式会社中央研究所

【日時】 令和元(2019)年8月7日(水) 14:35~16:05

【場所】 広島大学総合科学研究科 K209講義室(東広島キャンパス)

【参加者】 32名

【開催報告】

講師の西山氏は東京大学大学院農学生命科学研究科にて博士号を取得、愛媛女子短期大学生命科学研究科助手、愛媛大学ベンチャービジネスラボラトリー講師等を経て、日本ハム株式会社中央研究所に入社され、現在、同研究所研究員として活躍されています。

セミナー冒頭で、日本ハム株式会社は食肉の生産・加工から販売までを行っており、中央研究所では食品の機能性や健康に関する研究としてイミダゾールジペプチドの人体への影響、食肉生産効率向上のための基礎研究としてAI、センサーを活用した家畜飼育管理システム、さらにアレルギー対応食品の生産や食育の取り組みなどを行っているとお話がありました。また、同研究所が取り組んでいる、ゲノム編集を用いた畜産の生産性向上についてもご説明いただきました。

最後に、講師自身の経歴について、博士課程で取り組んできた研究とは異なる様々な分野の業務を同研究所で経験し、そのたびに新たな知識や視点を獲得してきたとお話いただきました。そうした経験から、博士人材には専門分野だけでなく関連分野への展開が必須であり、「高い専門性・幅広い分野に対する対応力・グローバルな視点を持った人材になってください」とメッセージをいただきました。

講演後のディスカッションでは、タンパク質供給不足の解決・回避をテーマに参加者同士で意見交換を行い、その後、西山氏からのコメントがあり、タンパク質の需要・供給の在り方について考える機会となりました。

◆第81回コンソーシアム人材セミナー(広島):昭和電工株式会社

【日時】 令和元(2019)年12月4日(水) 14:35~16:05

【場所】 広島大学総合科学研究科 K209講義室(東広島キャンパス)

【参加者】 32名

【開催報告】

講師の黒田氏は広島大学大学院工学研究科にて博士号を取得後、昭和電工株式会社に入社されました。最初の配属は大分研究所、その後川崎の研究開発センターにて主に触媒の研究に従事され、昭和電工セラミックス株式会社への出向を経て、現在は人事部人材開発グループで活躍されています。品川氏は広島大学大学院工学研究科の博士課程前期を修了後、同社に入社されました。現在は生産技術部で活躍されています。

セミナー冒頭では、化学業界および同社の紹介があり、身近な化学製品や素材産業の面白み・強み、そしてアルミニウムセグメントを持っている化学メーカーの珍しさなどをお話いただきました。続いて、研究開発の事例として、光触媒の開発・事業化について紹介していただきまし

た。酸化チタンは主に車の塗装などに使われていますが、コンデンサーとしても様々な電子機器に使われています。また、同社では酸化チタンを光触媒に活用し、空気浄化や水浄化へ応用するべく可視光応答型酸化チタンの開発に取り組み、プロジェクトリーダーを務めた黒田氏は、産官学の垣根を越えた交流をはかり、十面体酸化チタンおよび抗菌抗ウイルス効果がある銅系化合物担持酸化チタンの開発に結びつきました。品川氏からは、化学工学系のキャリアおよび就職活動について、経験をふまえてアドバイスいただきました。

最後に、企業が学生に求める能力や博士卒社員の活躍状況についてお話しがあり、「博士と修士の差」をテーマに意見交換を行いました。

◆第82回コンソーシアム人材セミナー（広島）：丸善製薬株式会社

【日 時】 令和元（2019）年12月11日（水）14：35～16：05

【場 所】 広島大学総合科学研究科 K209講義室(東広島キャンパス)

【参加者】 36名

【開催報告】

講師の西谷氏は神戸大学自然科学研究科資源生命科学を専攻、博士号を取得されました。その後、同大学医学部消化器内科の学術研究員となり、同大学農学研究科の助教を経て、丸善製薬株式会社に入社されました。現在は研究開発本部でご活躍されています。

同社は、社名こそ「製薬」会社ですが、実際は植物から天然成分を抽出・精製、そして発酵および分析技術をベースにもつ原料メーカーであり、医薬品のみにとどまらず、化粧品・食品・健康食品・日用品などの非常に幅広い分野へ原料を提供していることを、セミナー前半で紹介いただきました。

後半は、自身のキャリアについて、結婚や出産などのライフイベントも交えて紹介いただきました。博士課程時代に味わった研究の醍醐味が現在でも研究を続けるモチベーションになっていること、また、修了後も研究が継続できる環境を求め続けた結果、医学部の研究員として異分野に触れられたこと、農学研究科での助教の間は、研究以外にも大学運営業務に携わったことなど、様々な経験についてリアルな言葉でお話いただきました。

セミナー最後には、「自分の好きなことをひたすら考え、やりたいことを大事にして、それを続けられるような進路選択もある」というメッセージをいただき、受講者自身のキャリア選択について深く考える時間となりました。

◆第83回コンソーシアム人材セミナー（広島）：株式会社テレビ新広島

【日 時】 令和元（2019）年12月18日（水）14：35～16：05

【場 所】 広島大学総合科学研究科 K209講義室(東広島キャンパス)

【参加者】 33名

【開催報告】

講師の箕輪氏は早稲田大学の商学部を卒業後、株式会社フジテレビジョンに入社され、常務取締役報道局長、解説委員長、社会部長など様々なポストを経験されました。報道番組ニュースジャパンのコメンテーターを務められた経験もあります。現在は、株式会社テレビ新広島代表取締役社長としてご活躍されています。

セミナー冒頭では、会社の紹介と事件記者時代の一日について紹介いただきました。記者時代当時の事件発生後に現場へ出動して取材をするハードな一日について、また、警視庁の記者クラブに勤務されていた時の経験をお話いただく中で、「人々は、事件報道を見ることで被害者の心の痛みを共有し、その事件の原因に関心を抱き、社会全体で再発防止策を考えられるようになる。その目的のために事件記者として、正義感を大切に、取材に取り組んできた。」という思いを語っていただきました。

最後に、学生時代は世間知らずで頭でっかちな生き方だったけれども、事件記者となって素晴らしい人と出会い、話を聞く経験を積み重ねることで視野が広がり成長できたこと、その経験から、「街を歩き、人に会い、本を読むこと」を勧められました。そして、新しいことを発見し、問題意識を持つことで、変化がめまぐるしい現代において必要な「想像力」を養ってくださいと伝えられました。

◆第84回コンソーシアム人材セミナー（広島）：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

【日 時】 令和2（2020）年1月8日（水）14：35～16：05

【場 所】 広島大学総合科学研究科 K209講義室(東広島キャンパス)

【参加者】 29名

【開催報告】

講師の三枝氏は、北海道大学大学院理学研究科修士課程を修了後、新エネルギー・産業技術総合開発機構(以下「NEDO」)に就職されました。研究開発推進部に配属され、その後は、経済産業省 産業技術環境局へ出向、現在は、人事部にて活躍されています。

セミナー冒頭では、NEDOは国立研究開発法人として社会が抱えている問題を解決することを目的としており、技術を持っている大学や研究機関に予算を配分する組織であると紹介していただきました。主な業務である「プロジェクトマネジメント」では、情報収集から評価・追跡調査までのプロセスについて説明いただき、エネルギー、産業技術、国際事業など、複数の取組事例を具体的に示していただきました。

セミナー後半では、実際の職員のキャリアパスや、博士号取得職員をインタビューした生の声を紹介いただき、NEDOの仕事のやりがいとして、複数分野の新技术に触れて知的好奇心が満たされる点、実際に技術が社会で使われ国の問題解決に貢献できる点などを学生にお伝えいただきました。そして、最後のディスカッションでは、「20年後の社会を見据えた、収益化できる政策・研究課題とは何か」というテーマについて、受講者間で意見を出し合いました。

◆第85回コンソーシアム人材セミナー(広島)：株式会社NTTデータ経営研究所

【日 時】 令和2（2020）年1月15日（水）14：35～16：05

【場 所】 広島大学総合科学研究科 K209講義室(東広島キャンパス)

【参加者】 26名

【開催報告】

講師の野々山氏は早稲田大学法学部卒業後、アーサーアンダーセン&カンパニー(現アクセンチュア株式会社)に入社し、ITコンサルタントとして勤務されました。その後、株式会社NTTデータ経営研究所にて経営コンサルティング業務に従事され、現在は、同社経営管理部門 人事部長としてご活躍されています。

セミナー前半では、コンサルタントが問題解決のプロであること、また、シンクタンク、経営コンサルティング、ITコンサルティングなどの機能分類について説明していただきました。そして、近年では、クライアントのニーズが多様化していることからコンサルティングの難易度が高くなっており、コンサルタントとして、自らの力でプロジェクトを成功に導く能力だけでなく、収益を上げていく能力、ビジネスを開拓・創造&発信をしていく能力を身につけることがキャリアステップへ繋がり、“やりがいと成長”を感じられるようになる、という魅力を語っていただきました。

セミナー後半では、コンサルタントを目指す学生へのメッセージとして、好奇心旺盛などの適性やコンサル的思考力について伝えられ、「コンサルティング会社に新卒、中途どちらで入るべきか」を題材に、受講生が意見を出し合いました。

◆第86回コンソーシアム人材セミナー(広島)：みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社

【日 時】 令和2 (2020) 年1月22日 (水) 14：35～16：05

【場 所】 広島大学総合科学研究科 K209講義室(東広島キャンパス)

【参加者】 24名

【開催報告】

講師の武田氏は、東京大学理学系研究科物理学専攻にて博士課程後期を修了され、慶応義塾大学で博士研究員を務められた後、みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社に入社されました。現在は、投資技術開発部にてフィナンシャルエンジニアとしてご活躍されています。

武田氏は、宇宙に関する研究をしながら、常に世の中の事や景気について興味を持ち、「勝ち負けがハッキリすることもしてみたい」という想いから、金融の世界に入られました。同社は、金融業界において「クオンツ」という立場にあり、銀行や証券会社、運用会社に対して、数学(統計手法)を用いて、金融のテーマについての数理分析、意思決定、アドバイス等を行っています。その業務のプロセスは、アイデアを探し、それをデータ解析を用いて深堀し、結果を顧客へ売り込むという、研究のプロセスと非常に相性がよく、研究者としての経験が今の仕事にも活きていると伝えられました。

最後に、「プライベートな情報の公開に関する利点と欠点、現代の情報化社会にどのように関わっていくか」というテーマについてディスカッションし、未来の社会への期待と不安なども含めて意見を交わしました。

◆第87回コンソーシアム人材セミナー(広島)：マイクロンメモリ ジャパン合同会社

【日 時】 令和2 (2020) 年1月29日 (水) 14：35～16：05

【場 所】 広島大学総合科学研究科 K209講義室(東広島キャンパス)

【参加者】 28名

【開催報告】

講師の金子氏は、広島大学理学研究科化学専攻にて修士課程を修了後、NEC広島に入社され、設備技術部に配属されました。その後、エルピーダメモリ、マイクロンメモリ ジャパン合同会社へ移籍され、現在ではManufacturing Engineering部のDirectorとして活躍されています。

セミナーでは、半導体メモリに使われている回路パターンの作成方法やレーザー光の発生方法などの技術についてなどを含めた企業紹介をしていただき、IoTやAI、5G、自動運転の車などの技術が発展する限り、その元となっている半導体は私たちの生活の中で重要であり続けることについてお話しいただきました。また、最先端の製品を開発し、それを最短で量産するために、多様な分野のエンジニアを求めていることも述べられました。そして、学生への期待としては、「専門を背景とした現象の理解と問題解決に向けた発想やチームの能力を底上げするリーダーシップ力、国際的な評判を獲得できる力」などを挙げられました。

セミナーの最後には、「外資系で求められる・評価される人材とはどのような人材か」というディスカッションテーマで、受講生間で意見を出し合いました。

◆第88回コンソーシアム人材セミナー (広島)：協和発酵バイオ株式会社

【日 時】 令和2 (2020) 年2月5日 (水) 14：35～16：05

【場 所】 広島大学総合科学研究科 K209講義室(東広島キャンパス)

【参加者】 21名

【開催報告】

講師の倉都氏は東京大学大学院農学生命科学研究科の修士課程を修了後、協和発酵工業株式会社(現：協和発酵バイオ株式会社)に入社され、生産技術研究所 培養プロセス開発グループ 研究員を務められました。その後、富山県立大学工学部へ国内留学し、平成27年に農学博士(東京大学)を

取得されました。現在も引き続き、生産技術研究所 培養グループの主任研究員として活躍されています。

セミナー冒頭では、修士時代の微生物研究についてを含めての自己紹介と、同社が主にアミノ酸業界の素材メーカーであり、作成した素材が医薬品・化粧品などに使われることで人々の健康と豊かさに貢献している企業であることを説明していただきました。

同社の研究領域は基礎から商品化までの技術すべてに及んでおり、R&Iセンターでは“0から1にする”基礎研究等(育種)を行い、生産技術研究所では“1から100にする”応用研究等(育種+工学検討)を行っているそうです。その他にも、精製研究や工業化にかかわる研究事例について紹介していただき、企業と大学の研究で異なる点や、博士号取得者に求める能力等、キャリアについても触れられました。

最後に、「企業のキャリアにおいて、博士には“何ができるか”が求められるので、常に意識しながら、今の時間を大切に、学生時代にしかできない経験をしてほしい」とのメッセージをいただきました。

#### ◆第89回コンソーシアム人材セミナー（山口）：安川電機みらい館

【日 時】 令和元（2019）年7月4日（木）12：50～14：20

【場 所】 山口大学常盤キャンパス D31講義室

【参加者】 20名

【開催報告】

冒頭の浜田純夫名誉教授（キャリアパスデザイン推進室アドバイザー）の開会挨拶に続き、会場に来られていた大学院創成科学研究科長の堤宏守教授からもご挨拶をいただきました。その後、本学工学部電気工学科の卒業生で、現在安川電機みらい館館長である岡林千夫氏により、「技術系社員の海外駐在経験談～グローバル化時代を生き抜く研究者・技術者ケーススタディ」と題した講演がありました。

内容は、ご自身の紹介に始まり、勤務先である安川電機の歴史や現在の事業から、主力製品である産業用ロボットの話や、海外勤務の経験など、分かり易くご披露いただきました。特に、産業用ロボットは、それ自体の市場規模は年間1兆円であるが、年間200兆円の自動車産業に必要な不可欠なものになっていることや、日本では、各生産工場に特化した「専用品」としてのロボットを要求させるケースが多いが、欧州では幾つかの「標準品」からロボットを選択し、それを各生産工場向けにカスタマイズする多数の「システム・インテグレータ」が事業として成り立っているという日欧の差など、興味深い話題が多数紹介されました。企業の最前線ならではの話題が多く、学生達にも貴重な情報であったと思われます。

#### ◆第90回コンソーシアム人材セミナー（徳島）

【日 時】 令和元（2019）年7月18日（木）16：00～18：00

【場 所】 徳島大学蔵本キャンパス

藤井節郎記念医科学センター4階 セミナー室

【参加者】 33名

【開催報告】

7月18日（木）、徳島大学蔵本キャンパスの藤井節郎記念医科学センター4階セミナー室において、「第90回コンソーシアム人材セミナーin徳島」と「イノベーションクラブ講演会～島根大学発ベンチャーの取り組み～起業によるBenefitsと研究推進」を開催しました。

島根大学より「松崎有美教授」と「浦野 健教授」をお招きして起業に興味ある学生・教職員を対象に講演会を行いました。

令和元年度 第1回  
徳島大学 研究支援・産官学連携センター  
イノベーションクラブ講演会  
— 島根大学発ベンチャーの取り組み —  
起業によるbenefitsと研究推進  
2019年  
7月18日 木 16:00-18:00  
藤井節郎記念医科学センター4階 セミナー室  
(徳島大学蔵本キャンパス)

開会の挨拶 野地浩晴 徳島大学学長

第一部 「超高純度ヒト間葉系幹細胞 RECOの臨床応用基盤技術開発」  
講師：松崎有美 (島根大学医学部生体科学専攻 教授) 島根県立総合医療センター 院長  
島根県産ヒト間葉系幹細胞が再生医療に活用した、障害性骨形成不全疾患のあるヒトスライムシート作製の基礎的開発

第二部 「モノクローナル抗体を用いた バイオ医薬品開発について」  
講師：浦野 健 (島根大学理学部生命化学専攻 教授) 株式会社 mAbProtein、代表取締役  
特殊抗体製剤製造を推進した、免疫制御バイオ医薬品および研究開発、診断キットの開発経験

再生医療や抗体関連事業のベンチャー設立・運営に関心を持っている方々33名にご参加いただき、質疑応答も活発に行われました。

◆第91回コンソーシアム人材セミナー（徳島）

【日 時】 令和元（2019）年11月22日（金）16：00～18：30

【場 所】 徳島大学常三島キャンパス 地域連携プラザ2階  
けやきホール

【参加者】 135名

【開催報告】

2019年11月22日（金），常三島キャンパス地域連携プラザ2階けやきホールにて、「第91回コンソーシアム人材セミナー in 徳島／2019年度徳島大学産業院セミナー」を開催いたしました。

セミナーでは、これまでの産業院の取組の報告とともに、株式会社メディアドゥホールディングス代表取締役社長の藤田恭嗣様と、客員教授のX-Tech株式会社 代表取締役社長の西條晋一様に、起業に関する講演をしていただきました。また、株式会社ジェイテクトの研究開発本部 FFR部部長 兼 産業院招聘教授の山本吉二様と、ミヤリサン製薬株式会社の東京研究部部長兼産業院招聘准教授の岡健太郎様に、大学との連携に関する講演をしていただきました。

当日は学内外から135名参加されました。ご来場いただきました皆様、ありがとうございました。

2019年度 徳島大学産業院セミナー 参加費無料

日時 2019/11/22(金) 16:00-18:30

場所 徳島大学 けやきホール (常三島キャンパス 地域連携プラザ2階)

◆プログラム

- 16:00 開会の挨拶 藤田 恭嗣 徳島大学長
- 16:10 大学産業院の活動報告 森松 文哉 徳島大学産業院長
- 16:30 客員教授の講演 北岡 淑徳 客員 経営学教授
- 17:00 産業院招聘教授による起業に関する講演 山口 勇司 氏
- 18:00 産業院の取組
- 18:20 閉会の挨拶 山口 勇司 氏

◆申込方法

◆参加対象者

◆申込先

◆お問い合わせ先

◆第92回コンソーシアム人材セミナー（徳島）

【日 時】 令和2（2020）年3月18日（水）14：00～15：45

【場 所】 徳島大学常三島キャンパス 地域連携プラザ2階  
けやきホール

【参加者】 なし

【開催報告】

＜新型コロナウイルス感染症対策に関する徳島大学の基本方針に基づき中止＞

HIRAKU 日本学術振興会 (JSPS) 特別研究員説明会

令和2年 3月18日(水) 14:00-15:45

▶ 第一部 特別研究員制度について 14:00-15:05

▶ 第二部 採用費による特別研究員申請の書き方 15:05-15:45

▶ 徳島大学会場

▶ 常三島キャンパス(主会場)

▶ 徳島キャンパス(候補会場)

▶ 対象者

▶ 申し込み

▶ 問い合わせ先



## 8. 若手研究人材の意識啓発を促す取組

### 8-1. ウェブサイト

本事業の取組内容は、オリジナルウェブサイトHIRAKU(<https://home.hiroshima-u.ac.jp/hiraku/>)を構築し、イベント参加者募集や公募などのお知らせも随時掲載している。そこには、より詳細な内容や連携機関の情報を掲載している。また、若手研究者ポートフォリオ(HIRAKU-PF)にリンクしている。



### ◆ 広島大学グローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成

URL:[https://www.hiroshima-u.ac.jp/gcdc\\_yr/](https://www.hiroshima-u.ac.jp/gcdc_yr/)



◆ 山口大学 URL:<http://kenkyu.yamaguchi-u.ac.jp/HIRAKU/>

未来を拓く地方協奏プラットフォーム

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業

この度、文部科学省の平成26年度科学技術人材育成費補助事業「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」に、山口大学が共同実施機関として採択されました。  
「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」をテーマに、広島大学を代表機関として、共同実施機関に山口大学、徳島大学、連携機関には中四国の国立大学、公立大学、私立大学および多くの企業が参画して実施します。



長州五傑の碑 (山口大学吉田キャンパス)

→ 過去のトピックス一覧

トピックス	
2020/2/13	<a href="#">JSPS特別研究員説明会をTV配信</a>
2019/12/23	<a href="#">博士後期課程院生および若手の任期付き研究員対象 2019年度長期インターンシップの第二次募集について</a>
2019/09/26	<a href="#">「未来博士3分間コンペティション2019」において、創成科学研究科(工学)ライフサイエンス系専攻博士後期課程2年の崔亮秀さんが戸田工業賞を受賞</a>
2019/08/22	<a href="#">「未来を拓く地方協奏プラットフォーム第9回成果報告会」を開催</a>
2019/07/25	<a href="#">第11期コンソ教員(知能情報工学)の再公募</a>

◆ 徳島大学 URL:<https://www.tokushima-u.ac.jp/ccr/cons/>

徳島大学 研究支援・産官学連携センター  
Center for Research Administration & Collaboration

未来を拓く地方協奏プラットフォーム「HIRAKU」

未来を拓く地方協奏プラットフォーム 科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業「次世代研究者育成プログラム」  
中国四国地方を中心とした次世代研究者育成プログラム「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の情報を発信しています。

HIRAKUトップ プログラム概要 イベント 活動報告 公募情報 若手研究者の方へ 企業の方へ

2020年2月 印刷 連月 予定リスト

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	2月1日
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

代表機関: 広島大学のイベントカレンダー

大塚製薬株式会社 大塚製薬株式会社 大塚製薬株式会社

◆ 新着情報

2020年3月18日開催 [日本学術振興会\(JSPS\) 特別研究員説明会](#) 2020/02/14

8-2. 学生むけ小冊子 HIRAKU (2014 年度～2018 年度発行)

HIRAKU Vol. 1 (平成 27 (2015) 年 3 月発行)  
 博士課程後期を知る読本  
 ・次世代研究者インタビュー  
 ・博士課程後期研究者 座談会  
 ・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



中国四国地方を中心とした  
 次世代研究者育成プログラム  
 「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」

次世代研究者インタビュー  
 境界線「上」からのメッセージ……4  
 広島大学 大学院理学部理学系 化学専攻 数値解析・化学情報学グループ 2  
 安原 大樹  
 現実世界を凌駕する 3D 時代の到来……8  
 徳島大学 大学院工学部 加藤博幸研究室 加藤博幸 加藤博幸研究室 加藤博幸研究室  
 システム工学専攻 加藤博幸研究室 システム工学専攻 加藤博幸研究室  
 羽田 遼  
 大海に漕ぎ出し「知」の地図を描く……12  
 広島大学 特別支援センター 特別支援センター 特別支援センター  
 蔵 谷 裕 恵  
 未知を既知に変えるそれが研究の道……16  
 山口大学 大学院理学部 理学系 理学専攻 理学専攻 理学専攻  
 橋野 正紀  
 ヒロシマの記憶と対峙することで見える世界……20  
 広島大学 特別支援センター 特別支援センター 特別支援センター  
 楊 小平  
 〆名探偵の推理は常にグローバル……24  
 山口大学 大学院理学部 理学系 理学専攻 理学専攻 理学専攻  
 張 広志  
 実践の視点で社会にリンクさせていく……28  
 山口大学 大学院理学部 理学系 理学専攻 理学専攻 理学専攻  
 古川 翔太  
 全然分らない!!面白いに決まっている……32  
 広島大学 特別支援センター 特別支援センター 特別支援センター  
 大滝 孝治  
 博士課程後期研究者 座談会  
 若手研究者の今後の活躍を考える……36  
 未来を拓く地方協奏プラットフォームとは……40  
 博士課程後期を知ろう……44

未来を拓く地方協奏プラットフォーム  
 HIRAKU  
 Home for Innovative Researchers and Academic Knowledge Users

HIRAKU Vol. 2 (平成 28 (2016) 年 3 月 発行)

博士課程後期を知る読本

- ・「未来博士3分間コンペティション2015」  
受賞者インタビュー
- ・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



次世代研究者育成プログラム  
「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」

「未来博士3分間コンペティション2015」受賞者インタビュー

前例のない挑戦は世界初のスタート!...3  
田崎 英祐  
鳥取大学 大学院 工学部 新工科 生物資源科学専攻 資源利用化学実習D2

引き出しの数だけ生まれる可能性...7  
ソフィア スイダサリ  
広島大学 大学院 生物資源科学専攻 分子生物資源学専攻D3

優秀賞  
手探りの試行錯誤から始まる謎解き...11  
三浦 香織  
県立広島大学 大学院 理学部 生物資源科学専攻D1

内田 貴之  
彦根大学 大学院 理学部 生物資源科学専攻D1

企業賞  
普遍的価値観を技術で逆転させる...19  
木下 拓矢  
広島大学 大学院 理学部 生物資源科学専攻D1

未来博士3分間コンペティション2015  
発表者紹介...23  
未来を拓く地方協奏プラットフォームとは...31  
博士課程後期を知ろう...35

「未来博士3分間コンペティション2015」  
未来の博士たちが、自身の研究のビジョンと能力を3分間で分かりやすく語る「未来博士3分間コンペティション2015」を2015年11月1日に開催しました。約300人の審査オーディエンスの前に、博士課程後期の学生37人が1枚のスライド、持ち時間3分で研究内容のプレゼンテーションを行いました。「HIRAKU Vol.2」では、その受賞者にインタビューし、さらに研究内容を語り下げてご紹介します。

長沼毅教授も3分パフォーマンスに参戦!

HIRAKU Vol. 3 (平成 29 (2017) 年 3 月発行)

博士課程後期を知る読本

- ・「未来博士3分間コンペティション2016」  
受賞者インタビュー
- ・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



次世代研究青年育成プログラム  
「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」

若きインベーターたちが  
未知の世界に挑む。

「未来博士3分間コンペティション2016」受賞者インタビュー

目次

声の謎を解き明かすため、テクノロジーの領域へ…3  
飯島 聡志  
HIRAKU 編集別冊

微生物は魔法の生物…7  
岡山大学 工学部理工学研究所環境工学研究室 研究員 D1  
トシ アマダ ガサリ

グローバルな視野  
世界の自然環境と母国の大地を取り戻す…11  
広島大学 大学院先端総合科学研究科 環境制御学研究室 D1  
タンチャイ マツタナ  
優秀賞 (日本語賞)

既知の中に潜む一片の未知を追う…14  
愛媛大学 大学院総合工学研究科 食品システム工学研究室 D1  
赤澤 隆志

阻害剤 (英語版)  
若くして死ぬ連中にもある海の霊長類たち…17  
広島大学 大学院生物圏科学研究所 次世代育成研究室 D1  
宮野 哲史

企業賞 中外クラス賞  
テクノロジーの先端から、世界を俯瞰する…20  
徳島大学 大学院先端工学部 光応用情報研究室 D1  
水野 孝彦

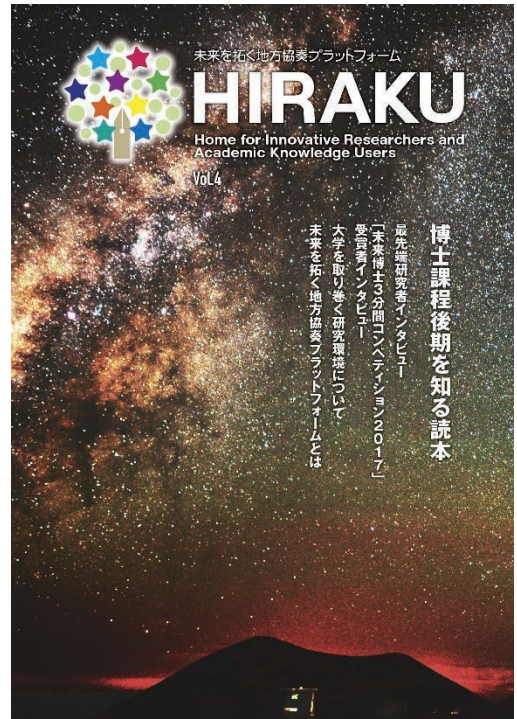
未来博士3分間コンペティション2016 発表者紹介…23  
未来を拓く地方協奏プラットフォームとは…32  
博士課程後期を知ろう…36

未来博士3分間コンペティション2016  
未来の博士たちが、自身の研究のビジョンと能力を3分間で分かりやすく語る「未来博士3分間コンペティション2016」を2016年9月24日に開催しました。約300人の審査オーディエンスの前に、博士課程後期の学生38人が1枚のスライド、持ち時間3分で研究内容のプレゼンテーションを行いました。  
『HIRAKU Vol.3』では、その受賞者にインタビューし、さらに研究内容を盛り下げてご紹介します。

HIRAKU Vol. 4 (平成 30 (2018) 年 3 月発行)

博士課程後期を知る読本

- ・最先端研究者インタビュー
- ・「未来博士3分間コンペティション2017」受賞者インタビュー
- ・大学を取り巻く研究環境について
- ・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



HIRAKU Vol. 5 (平成 31 (2019) 年 3 月発行)

博士課程後期を知る読本

- ・若手研究者座談会
- ・「未来博士3分間コンペティション2018」受賞者インタビュー
- ・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



走り出すことで、本当の未来が見えてきた。

若手研究者座談会

次代を担う若手研究者として活躍する3人にお話を聞きました。

「そもそも研究の道を選ぶ際、先輩たちに悩みや迷いはなかったのだろうか?」「研究者として歩みだすと、いったいどんな毎日が待っているのだろうか?」そんな先輩たちの疑問に答えるため、次代を担う若手研究者3人が、実体験に基づき研究者のリアルな日常について語ってくれました。

**研究価値を伝えること、それも重要なミッション**  
Q. まずは自己紹介を兼ねて皆さんの研究について教えてくださいいただけますか?

**谷原** 私は学生の頃から生殖工学の研究をしていました。遺伝子改変ブタに取り組んでいます。マウスやラットと比較して、生理学的・病理学的・解剖学的にヒトに近いブタをつくりだすことで、創薬実験や治療法開発に貢献できればと思っています。

**原** 私の場合は、細胞内部の核やミトコンドリアといっ

た細胞小器官の大きさ、細胞の大きさとの関係性が研究テーマです。それらを制御する仕組みと機能性を解明することを目指しています。

**松本** 私は17世紀の英文学、中でも詩文学を専門としています。ヘンリー・ワotton という詩人を主に研究しているのですが、彼の双子の弟が錬金術師であったことから、産業革命以前の科学思想と文学との関わりなどについても研究しています。

**原** 錬金術ですか?面白そうですね。英文学という方も、私たちが足場を置く科



若手研究者座談会

走り出すことで、本当の未来が見えてきた。…2

徳島大学 大学院社会産業理工学研究部 谷原 史倫 特任助教  
山口大学 大学院創成科学研究科(理学) 原 裕貴 助教  
広島大学 学術院 大学院文学研究科 松本 舞 助教

「未来博士3分間コンペティション2018」受賞者インタビュー

最優秀賞

土壤汚染問題に植物のストレス耐性で解決を挑む…7  
慶徳大学 大学院連合農学研究科 生物資源利用学専攻(香川大学配属) DI  
ホセイン イムディシャハダット

グローバルチャレンジ賞

細胞の未知の領域へ糖鎖の解明で挑む…11  
岐阜大学 大学院連合農学研究科 生物資源科学専攻 DI 浅野 早知

優秀賞(日本語部門)

患者の日常を取り戻すために新しい解を探す…15  
広島大学 大学院医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻 D3 小島 裕子

企業賞(マツタ賞)

研究は自己表現の手段で共通言語でもある…18  
岡山大学 大学院環境生命科学研究科 環境科学専攻 D2 福間 早紀

未来博士3分間コンペティション2018\* 発表者紹介…21

未来を拓く地方協奏プラットフォームとは…31

博士課程後期を知ろう…36

※未来博士3分間コンペティション2018

未来の博士たちが、自身の研究のビジョンと魅力を3分間で分かりやすく語る「未来博士3分間コンペティション2018」を2018年9月15日に開催しました。約300人の審査オーディエンスを前に、博士課程後期の学生31人が1枚のスライド、持ち時間3分で研究内容のプレゼンテーションを行いました。「HIRAKU Vol.5」では、その受賞者にインタビューし、さらに研究内容を掘り下げてご紹介いたします。

8-3. 学生むけ小冊子 HAKUSHI (2015年度, 2017年度発行)

# HAKUSHI

博士課程後期を知ろう



HIRAKU

博士課程後期への進学は、  
あなたに与えられた  
かけがえのないチャンス。  
あなたがえのないチャンス。

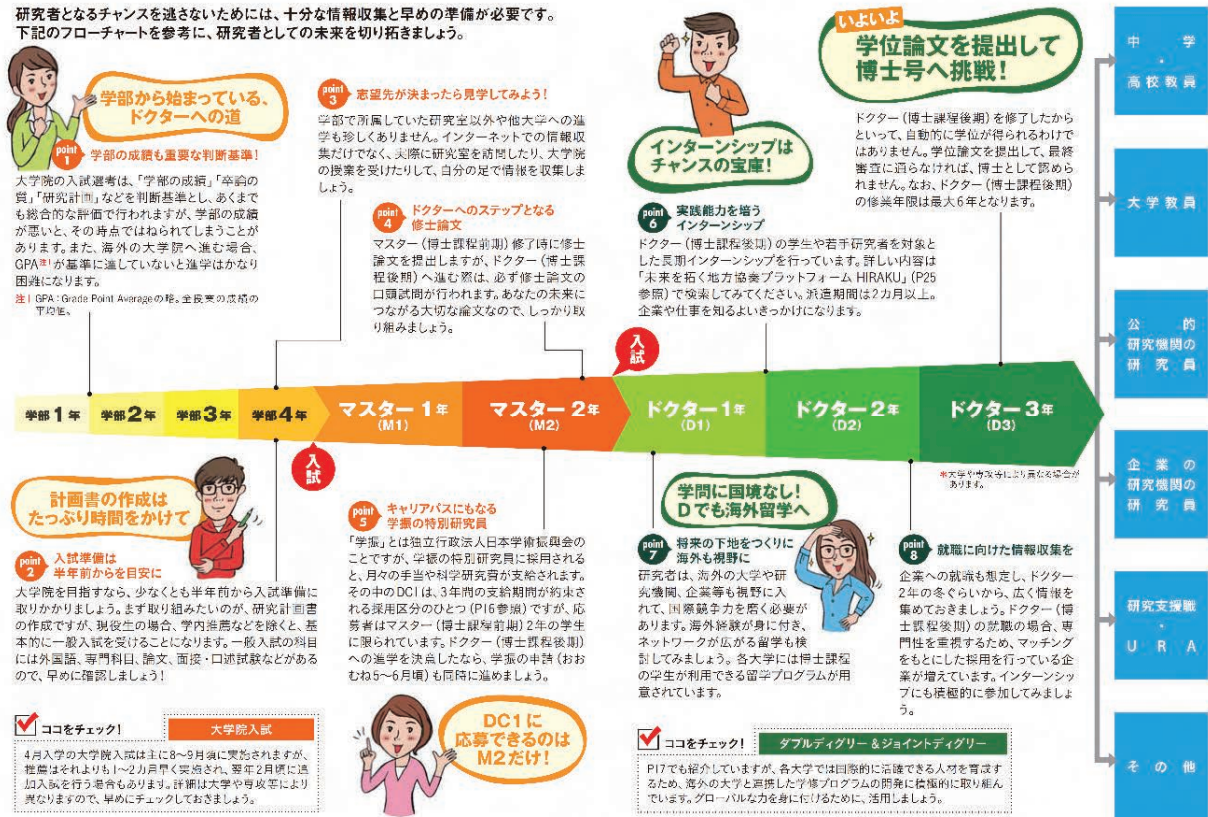
2015年10月版

HAKUSHI 平成 25 (2015) 年 10 月版

博士課程後期への進学は、  
あなたに与えられたかけがえのないチャンス。

- ・進学フロー
- ・研究者インタビュー
- ・学生インタビュー
- ・あなたの疑問にお答えします!!

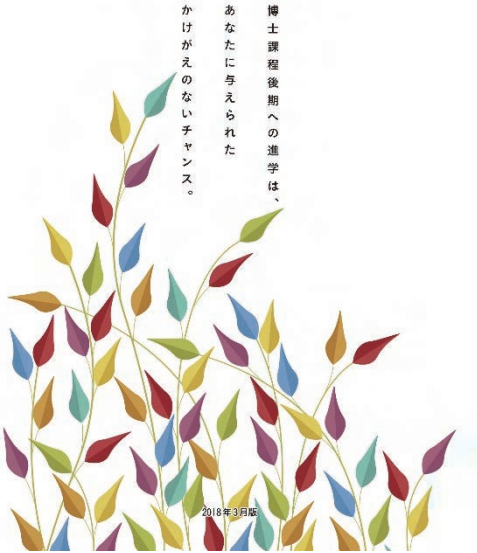
研究者となるチャンスを逃さないためには、十分な情報収集と早めの準備が必要です。  
下記のフローチャートを参考に、研究者としての未来を切り拓きましょう。





# HAKUSHI

博士課程後期を知らう



博士課程後期への進学は、あなたに与えられたかけがえのないチャンス。

2018年3月版

HAKUSHI 平成 30(2018)年 3 月版

博士課程後期への進学は、あなたに与えられたかけがえのないチャンス。

- ・進学フロー
- ・研究者インタビュー
- ・対談
- ・HAKUSHI の先
- ・コラム
- ・HIRKU-PF
- ・あなたの疑問にお答えします!!

研究者となるチャンスを逃さないためには、十分な情報収集と早めの準備が必要です。下記のフローチャートを参考に、研究者としての未来を切り拓きましょう。



## 9. 若手研究人材のキャリアスタート支援

### 9-1. 若手研究人材ポートフォリオ HIRAKU-PF

「若手研究者ポートフォリオ(HIRAKU-PF)」は、本事業の基幹 IT システムとして、いろいろな「あつまる」・「つながる」・「まじわる」機能を通じて、博士課程学生を含む若手研究者が社会とのつながりを深め、新たな出会いや気づきの中で自らの未来を拓くことができるように構築し、平成28(2016)年3月に運用を開始した。

(配布チラシ)

**若手研究者ポートフォリオ HIRAKU-PF**

若手研究者のポテンシャル、活用してみませんか?

- 自社 PR
- 共同開発
- 人材確保
- CSR

連携企業 研究所さま

未来を拓く人材や、技術の裾野を 広げよう

博士課程学生 若手研究者

未来を拓く人材や、技術の裾野を 広げよう

自己 PR 研究 PR

就職活動 能力開発

若手研究者のみなさん!!

新たな出会いや気づきを 広げよう

若手研究者 連携企業 研究所

**若手研究者ポートフォリオ (HIRAKU-PF) のご案内**

HIRAKU-PFとは、若手研究者のポテンシャルを最大限に活用するためのプラットフォームです。企業と若手研究者をつなぐことで、お互いの成長を促し、社会の発展に貢献します。

**まずは、利用登録を!!**

【利用登録の手順】

1. HIRAKU ホームページ
2. HIRAKU-PF のアカウントを作成
3. メールアドレスを確認
4. パスワードを設定
5. メールアドレスを確認
6. メールアドレスを確認

【お問い合わせ先】

〒082-424-2058  
MIRAI-IT@mirai-it.ac.jp

**HIRAKU-PF 若手研究者ポートフォリオ**

こんなことができます。

**若手研究者・企業の情報発信**

- プロフィール・企業情報
- 得意分野
- スキル
- ネット上にも発信可能

**研究技術や人材のマッチング**

- 研究情報発信
- 企業情報発信
- 若手研究者と企業の出会いの場

**インターンシップ・求人情報**

- インターンシップ公募
- インターンシップ支援
- 求人情報

**能力アップを目指す**

- 研究実習体験
- Vitala RDF
- 海外実習体験

**将来を考える**

- キャリア相談
- 企業訪問
- インターンシップ体験

**仲を深めて交流する**

- グループ展示
- リアルタイムメッセージ
- メールアドレス表示不可

**研究者をさがす**

- 検索機能
- 検索履歴
- 検索履歴

**HIRAKU コンソーシアムのご案内**

本コンソーシアムは、先端科学の推進と科学技術人材の育成を目的として、企業と大学が連携して運営されています。若手研究者のキャリアスタート支援に貢献しています。

◆HIRAKU-PF が網羅する主な機能

(1) 若手研究者も企業等のPR情報発信および検索 — eポートフォリオ機能 検索機能

HIRAKUに参画する多くの国公立大学の博士課程学生・若手研究者，幅広い連携企業・公的機関がユーザ登録することにより利用可能となる。ユーザーとして付与されたアカウントを基にeポートフォリオを作成し，若手研究者は自分のプロフィールや研究業績，PR動画やファイル，所属研究室が公開するSNSなどを，連携機関は機関概要，求める博士人材，活躍している博士人材などを登録し，HIRAKU-PF内で相互にアピールすることができる。若手研究者については氏名，所属機関やキーワードを利用して検索することができ，eポートフォリオを閲覧することができる。公開を希望する研究者は，自分のeポートフォリオをネット上に公開することも可能であり，全世界に向けて発信することができる。



(若手研究者)

eポートフォリオを作成し，基本情報に加え，自己アピール文，研究活動など積極的にPRできる。



YouTubeやmp4ファイルなどのPR動画を埋め込みで掲載することができる。



Facebook ページや Twitter, ブログなど SNS 情報を埋め込みで表示させることができる。



検索条件を入力・選択することにより、登録されている若手研究者を検索し、e ポートフォリオを閲覧することができる。(ネット公開設定している研究者であれば、外部検索エンジンでも検索可能)



閲覧した e ポートフォリオから、直接システム内でメッセージを送信することができる。

基本情報(Profile)



**企業・団体(Organization)**  
中外テクノス株式会社/Chugai Technos Corporation

**部署(Department)**  
環境事業本部 取締役事業本部長 村岡 裕彦

機関紹介・PR>About us

**事業案内**  
Business

「スマートな技術でスマートな未来を」  
Smart technology, smart future

電機・機械・情報・物理・化学・生物の各部門からなる中外テクノスの技術を融合し、多様なニーズにスマート(効果的・知


**専門調査** Investigation

環境、建設、工業あらゆる産業分野において、先進の調査技術を駆使した信頼性の高い調査データをご提供します。


- 環境調査・分析
- 環境微生物解析
- 環境装置性能試験
- 省エネ診断
- 構造物調査

(連携企業・公的機関)  
連携企業・公的機関のeポートフォリオでは、各機関の概要を掲載できる。既存のホームページがあれば、画像やリンクなどもそのまま添付可能。


活躍中の博士人材(Doctorate Holders)



キラキラした目の子どもたちをもっと増やしたい  
博士(理学)  
花里 美紗穂



全員が誰かのために頑張っていることで  
博士(工学)  
上野 裕子



研究室から「書く」仕事  
博士(生命科学)  
磯貝 里子

求める人材(Expected Talents)

我々は高い夢と志を持って「ブレークスルー」に挑み、挑戦をする人達と共に、感動と夢

“ブレークスルー”とは、  
マツダにしかできないことを、考え抜く。  
マツダだからできることを、やり抜く。  
そこに、世界を牽引する走りが生まれる。

美しく爽快な走りを生み出すにはパワフルなエンジンの開発が必要となり、一方で、環境に優しいクルマを生み出すには燃費性能を突き詰めなければならない。一般論としては、「相反する2つの最適なバランスを求めろ」という妥協が、技術の常識である。これに対しマツダは、飽くまでも常識にとらわれず、高い次元で両立させる選択を断行する。これが「ブレークスルー」の発想だ。バランスポイントを決めることは、ブレークスルーしないと決めたことに等しい。マツダならではの、自由に熱意を重ねるチャレンジスピリットから、世界に先がけたワクワクする走り、心奪われる美しいクルマが生み出されていく。その一点にしか、我々は喜びを見いださない。

■シニアエンジニアインタビュー  
クルマづくりで世界に貢献する。平野の街・広島でマツダの精神をカタチに。  
ロードスター主筆/山本 修弘

1989年の誕生以来、世界中の人々から愛されているマツダロードスター。現在も、より多くの感動と走る喜びを与えるべく進化を続けている。その主筆である山本 修弘がエンジニアを目指した自身の原点とマツダに挑めるスピリット。そして広島での開発にこだわり続ける理由や次代を担う就活生への想いを語る。  
マツダ(株)HPへリンク  
<http://www.mazda.com/ja/careers/newgraduate/interview/yamamoto/>

求める人材や実際に活躍している人材など、博士人材に特化して情報発信ができる。

## (2) シーズ・ニーズ情報の発信・閲覧・交流促進 – シーズ・ニーズ機能

連携機関やシニア教員は、研究技術、研究人材などの「ニーズ」を登録し、全研究者ユーザーに対して発信できる。若手研究者や若手教員は、自分たちが持つ研究技術やスキルを「シーズ」として登録し発信できる。それぞれが選択した公開先に含まれるユーザーは、ログイン後に表示されるトップページ(ポータル)画面において、シーズ・ニーズの一覧情報を確認し、関心を持った場合には表明することができる。情報を登録したユーザーは、関心を表明したユーザーを招待して掲示板を作成し、コミュニケーションを開始することもできる。

The screenshot shows the SEEDS & NEEDS Mathing Square interface. On the left, there is a sidebar with a search bar and a list of needs. The main content area displays a detailed view of a need titled '様々な産業・環境に深く関わる微生物を解析するバイオ技術者を募集！' (Recruiting bio-technology experts who deeply engage with various industries and environments for microbial analysis!). The detailed view includes fields for '登録日 (Post Date)', '最終更新日時 (Last Updated)', '掲載者 (Posted by)', 'キーワード (Keyword)', '公開日 (Release Date)', '期限日 (Deadline)', 'ステータス (Status)', and '関連リンク (URL)'. The need is posted by HIRAKU 運営協議会事務局 / HIRAKU Operating Council Office (HIRAKU) / 広島大学 (Hiroshima University). The keywords include '環境 バイオテクノロジー技術', '排水処理, スクワモ属', '遺伝子解析データの処理 (QIIME, ARBZ)', and '環境分析 (GC, LC, 顕微鏡観察など)'. The deadline is 2018/04/30. The status is '公開中 (Open)'. The URL is https://doda.jp/DodaFront/New/JobSearchDetail/Job\_id\_3002107867/fm\_list/tg\_1/mrtd\_0/.

ポータル画面上に登録したシーズやニーズが掲示され、閲覧者は☆マークをクリックすることで関心を表明することができる。

## (3) インターンシップ/求人/イベント情報の発信・入手 – インターンシップ機能 イベント機能

博士課程学生・若手研究者向けに集約されたインターンシップや求人情報などの情報が閲覧できるだけでなく、応募や必要書類のアップロードも HIRAKU-PF 上から行うことができる。HIRAKU-PF 上から連携企業／公的機関へ直接質問も可能である。若手研究者からの提案が新しいインターンシップや共同研究につながる流れも期待される。

## (4) キャリア相談の依頼および面談実績の管理 – キャリア相談機能 支援情報機能

キャリア相談やインターンシップ等の相談も、HIRAKU-PF を通じて依頼・設定可能であり、過去の相談状況を蓄積できる。また、各種支援情報も提供される。

## (5) ユーザー同士の気軽なコミュニケーション – 掲示板機能 メッセージ機能

(1)で前述のとおり、ユーザーは検索後に閲覧した他ユーザーのeポートフォリオからメッセージ機能を使って直接連絡を取ることができる。また掲示板機能もあり、博士課程学生・若手研究者同士が掲示板グループを作成して若手研究者主体のイベント運営や情報交換などに利用したり、連携機関と若手研究者がシーズ・ニーズ機能などを通じて掲示板グループを作成し、共同研究のきっかけ作りに利用したり、研修やワークショップなどを通じてできたワーキンググループで掲示板グループを作成し課題・演習のフォローに活用したりすることができる。

★ イノベーション演習 テーマ①(7件7 item/未読(Unread)0件0 item)

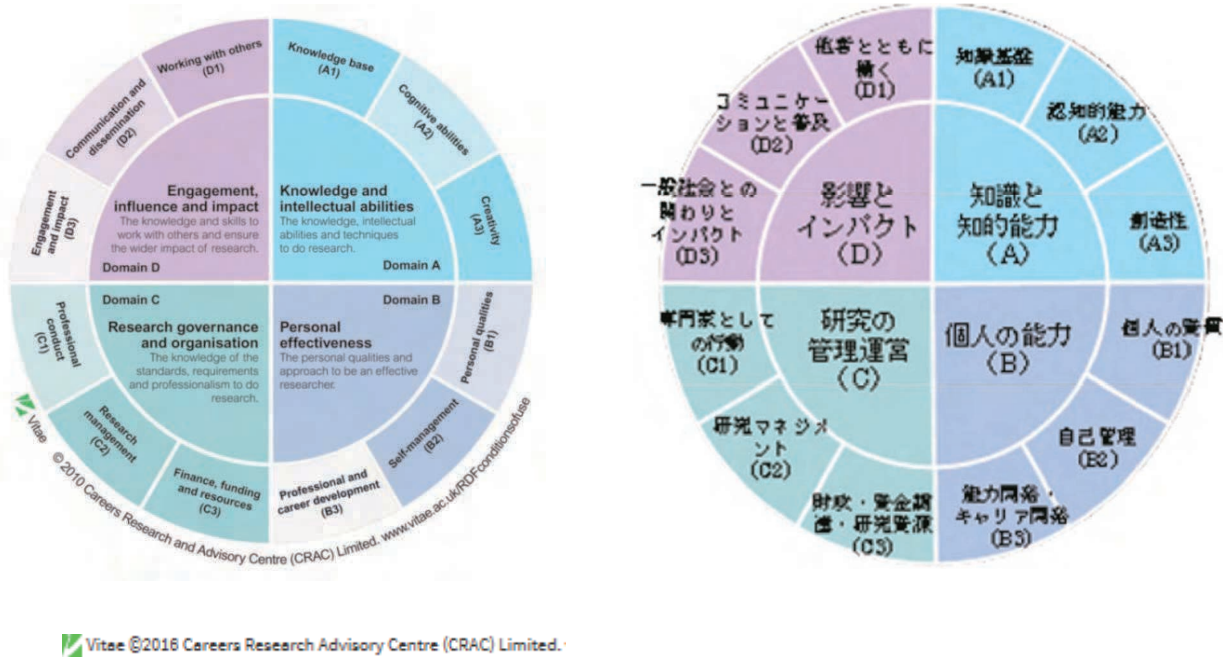
タイトル(Title)	投稿者(Posted by)	投稿数(No. of Posts)	最終更新日時(Last Updated)
10/27 フィールドワーク 写真共有	三須敏幸	14	2017/11/15 09:42
(お知らせ) 第3回 11/17 演習開始前 放映案内	HIRAKU 運営協議会事務局 / HIRAKU Operating Council Office	1	2017/11/16 19:37
第3回 ワークショップを振り返って	イノベーション演習聴講生 1	3	2017/11/24 17:36
広報についてお願い	HIRAKU 運営協議会事務局 / HIRAKU Operating Council Office	2	2017/11/27 12:33
第4回ワークショップ振り返りおよび最終発表準備について	川瀬真紀	9	2017/12/13 22:32
最終発表スライド	HIRAKU 運営協議会事務局 / HIRAKU Operating Council Office	1	2017/12/18 15:08
成果発表会 開催報告(HP)およびコメント共有	HIRAKU 運営協議会事務局 / HIRAKU Operating Council Office	1	2017/12/28 16:24

平成 29(2017)年,平成 30(2018)年,令和元(2019)年に開講した「課題提案型ワークショップ(広島大学大学院共通科目・大学院共通科目「イノベーション演習」)」では,履修生と参加企業からなるワーキンググループおよび各グループの担当教員やアシスタントで掲示板を作成し,情報共有や演習時間外のコミュニケーションに活用した。

(6) 研究者として能力チェック&講座情報の入手ー 能力開発支援機能

高等教育機関,研究機関の博士研究者や博士課程在籍者の自己啓発,専門的能力開発及びキャリア開発を支援する英国の非営利の全国的ネットワーク組織 Vitae が作成した研究者の総合的な能力指標,“Researchers Development Framework(RDF)”が組み込まれている。研究者に必要とされる 63 項目の能力について 5 段階のステージで表示しているのので,現状把握や将来の指針として参考にすることができる。自分がどのステージにいるのか自己診断し,その根拠を記録することで,自分の能力を客観的に捉えることができ,さらなる向上を目指して目標を設定することができる。また対象能力を養成することが可能な授業やプログラムを確認し,その参加状況を記録することも可能。自己診断結果は,記録した根拠や設定目標と併せてレポート出力ができる。自分の能力養成状況を定期的に診断して更新し続けることにより,自分の成長状況を時系列で確認することができる。

(Vitae RDF)



詳細項目確認と診断(RDF Descriptor Phases & Assessment): RDF全項目診断(Full RDF Skills)

RDF No. A2.5 能力(Skills) 問題解決力 (Problem solving)

背景色がオレンジ色のフェーズが、あなたのロールに対し適用することを推奨される目標フェーズです。 Phases highlighted in orange is, are the skill level(s) you are expected to achieve.

あなたの目標

フェーズ(Phase)				
0	1	2	3	4
自分の研究における基本テーマを特定し、基本的な研究上の問いと仮説を導いている。(Isolates basic themes of own research; formulates basic research questions and hypotheses.)	幅広い研究課題に対して解決案を導き上げて適用し、研究成果を効果的に分析、解釈している。(Formulates and applies solutions to a range of research problems and effectively) analyses and interprets research results.)	研究の新たな動向、課題や問い、広範な課題を規定し、大型のプロジェクトを立案している。(Identifies new trends, complex questions and broader problems; designs substantial projects. Challenges particular hypotheses and refines them in the light of results.)	物事の理解に大きく貢献することで研究課題によって、従来型の思考一般に異議を唱えている。(Leads a research agenda by making. Asks the pertinent questions and designing in general and progress research them	

目標未達成の場合には自分の現在のフェーズを、達成したフェーズよりも低いフェーズを選択してください。 You can overwrite this field, if your achieved phase is what is displayed.

能力ごとに 5 段階のステージに分けて、期待される知識・行動・態度などが表示される。自分がどの段階にあるか自己診断する。

自己診断の根拠(エビデンス)、対象能力を伸ばすためのアクションプランを入力することができる。

アクションプラン(Action Plan) 中項目1個目(全22項目)で設定したアクションプランがあれば入力してください。 Please fill in your action plan/evidence per sub-domains if you have.

視野を広げ、幅広い課題解決に向けて大型のプロジェクトを立案できるよう、xxx関連企業におけるインターンシップに挑戦する(2018年8月まで)

エビデンス(Evidence) 目標フェーズを達成している連続したと診断する場合、その連続を入力してください。入力内容は自己評価レポートにも反映されます。 Please fill in the evidence in the Self-Assessment Report.

ABCDの研究において、テーマを「E」に特定し、基本的な研究上の問いと仮説を導き、3分間コンペティション2015において企業XYZを完結した。

3分間コンペ2015\_最優秀賞.mp4

### 能力養成科目/プログラム詳細(Recommended Class/Program Description)

能力養成科目/プログラムの詳細です。一番下までスクロールすると、養成が期待される能力の一覧を確認することができます。 the class/program. Scroll down to the bottom to check the full list of RDF skills expected to be developed by taking this class/program.

#### 長期インターンシップ

講師(Instructor)	三須敬幸
所属機関(Univ./Org.)	広島大学(Hiroshima University)
機関内課室コード(Class Code)	E5025001
所属学局(Faculty/Dept.)	グローバルキャリアデザインセンター
開講期(Semester/Term)	2016年度
曜日・時限(Day/Period)	集中

対象能力を養成することが可能な講座、プログラムなどが登録されており、参加・受講を記録していくことができる。



**自己評価レポート**

開始時点 **2017年2月**

研究員名: NEAKU-PPD 宇野 一孝  
 学生・職位: 准教授(研究員)(PD)  
 所属: 広島大学(Hiroshima University)  
 研究科・専攻: NEAKU-PPD 化学研究科

能力診断結果  
**研究員基礎能力診断(Starter in Research)**  
 進捗率 **47%** 17項目中 8項目達成

全体目標  
 この分野の研究で培った能力をさらに、もっと一般社会に関わり、影響力を發揮できるように研究機会に力を入れ、最終的には、講演などで意見を表明することを目指す。そのために、一般社会との関わりを強化し、リーダーシップとコミュニケーション力を向上させる。  
 I aim to become a researcher, more engaged with the public, giving more impact and influence, based on the skills and competencies developed through lectures or any other social opportunities, proactively playing responsible roles on projects, providing coaching and guidance to the less and To achieve my goal in 5 years to become (detailed position/job title, etc.), I will take more public opportunities and develop my leadership and command

中期目標  
 [前期] 全体目標である「一般社会との関わり」のために、「D活動とイベント」を増やし、セミナーを受講する。最終的には、表題プロジェクトの発表論文(前期)で英語論文を書く力を伸ばす。  
 イベント参加については、他機関の方との連携も踏まえつつ、一般社会との関わりやコミュニケーション力を高めるために、研学祭などの発表会

能力診断結果

能力診断結果(詳細)

大項目	中項目	アロシオン プロセス	エビデンス	小項目	研究員 基礎能力診断 達成経歴	評価 スコア
A: 専門分野の知識	A1: 知識基盤	特に達成が必要と思われるA11(専門分野の知識)の強化に努め、養成科目の受講、論文発表	AP00の研究において、テーマを「○○」に特化し、基本的な研究上の関心分野を確立、論文発表	A1.1: 専門分野の知識 (Subject knowledge) A1.4: 情報収集力 (Information seeking)	達成済	2
	A2: 批判的思考力	特に達成が必要と思われるA11(専門分野の知識) A12(批判的思考力)の強化に努め、養成		A2.2: 批判的思考力 (Critical thinking) A2.3: 問題解決力 (Problem solving)	達成済	0
	A3: 創造性	特に達成が必要と思われるA11(専門分野の知識) A12(批判的思考力)の強化に努め、養成	AP00において、発案に繋がるアイデアの創出	A3.1: 探究心 (Inquisitiveness)	達成済	2
B: 個人の資質	B1: 発表力	特に達成が必要と思われるB11(発表力)の強化に努め、養成	日々の練習をもち、研究に関わり進んでいく。ルーティンワークのこなすこと	B1.1: 発表 (Presentation)	達成済	2
	B2: 英語力	特に達成が必要と思われるB21(英語力)の強化に努め、養成		B2.1: 英語 (Self-confidence)	達成済	0

自己診断結果、短期・長期目標、エビデンス、アクションプラン、記録した科目参加履歴などを時系列で遡ってエクセルに出力することができる。

◆ユーザー数

- ・平成 29 (2017) 年 12 月 31 日時点の 849 件から平成 30 (2018) 年 12 月 31 日現在で 1,465 件まで増加。
- ・平成 30 (2018) 年 12 月 31 日時点でのユーザー数内訳は、若手研究者 1,310 名 (D 1,195 名, M 50 名, PD 65 名)、修了者 41 名。また、若手研究者の大学別内訳は、広島大学 1,213 名、山口大学 24 名、徳島大学 23 名、左記以外の大学 50 名。
- ・令和元 (2019) 年 12 月 31 日現在のユーザー数内訳は、若手研究者 1,713 名 (D 1,595 名, M 53 名, PD 65 名)、修了者 53 名。また、若手研究者の大学別内訳は、広島大学 1,604 名、山口大学 22 名、徳島大学 37 名、左記以外の大学 50 名。加えて教職員 (相談員含む) 70 名、連携機関 62 機関 (代表機関・共同実施機関を除く)

## 9-2. 博士人材キャリア相談室

センターのスタッフ等と一緒に自身のキャリア設計について考え、今後の進路に関する不安を一つ一つ解決する支援をしている。たとえば、就職を希望する博士課程後期学生や若手研究者には、履歴書を作成させ、履歴書の構成や文章の流れなどを指導したり、面接試験にあたっての基本的なマナーや礼儀作法、あるいは企業出身のコーディネーターや幅広い分野の専門家の先生と実践形式の面接指導などを行ったりしている。

※例:キャリア設計相談、進路・進学相談、履歴書作成・面接指導、プレゼンテーション能力の向上

【相談日時】 随時（但し、予約優先）

【場 所】 グローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成（広島大学学生プラザ 2F）

【予 約】 「若手研究者ポートフォリオ（HIRAKU-PF）」面談機能を利用して予約すること。

【問合せ先】 グローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成

E-MAIL [wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp](mailto:wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp)

URL [https://www.hiroshima-u.ac.jp/gcdc\\_yr/consultation](https://www.hiroshima-u.ac.jp/gcdc_yr/consultation)

平成 26（2014）年度 11 月以降相談者延べ数 110 名

平成 27（2015）年度相談者延べ数 213 名

平成 28（2016）年度相談者延べ人数 196 名

平成 29（2017）年度相談者延べ人数 175 名

平成 30（2018）年度相談者延べ人数 157 名

令和元（2019）年度（1 月末日現在）相談者延べ人数 134 名

## 10. 代表機関および共同実施機関独自の取組

### 10-1. 広島大学独自の取組

#### 10-1-1. 広島大学特別研究員 成果報告会

広島大学では、学位取得者を対象に、教育機関や産業界で活躍できる人材の育成を目指して、広島大学特別研究員という制度を設けている。その制度について説明を行うとともに、自らの研究実績とキャリアパス形成の取組について報告を行った。

##### (1) 第7回 広島大学特別研究員成果報告会

【日 時】 令和元（2019）年 7 月 30 日（金） 15:00～17:00

【場 所】 学生プラザ 1 階 東側

【参加者】 24 名

##### 【概要】

まず、グローバルキャリアデザインセンター副センター長である 三須 敏幸 教授より、広島大学特別研究員制度についてご説明いただいた後、2018 年度第 2 期 広島大学特別研究員である Ferreiro Posse Damaso 氏、姜 睿 氏、何 磊 氏の 3 名に講演していただきました。

講演では、「研究紹介」や「特別研究員としての取り組み」、「自己評価」についてご紹介いただきました。その中で、自身の研究分野と関連するインターンシップ、キャリアプランの立て方や就職活動、大学での研究と社会との関連、特別研究員のセミナーについて、具体例を挙げながらお話しいただきました。そして、最後にグループディスカッションの時間を 15 分間設け、参加者と講演者が隔たりなく、キャリアプラン、研究活動、特別研究員の生活について、それぞれの率直な意見を交わすことができました。参加者が、キャリア開発・キャリアプランに関する情報を獲得し、意見交流をすることで、自身のキャリアを描いてみることであった報告会でした。



## (2) 第8回 広島大学特別研究員成果報告会

【日 時】 令和2(2020)年2月14日(金) 15:00~16:30

【場 所】 学生プラザ1階 東側

【参加者】 21名

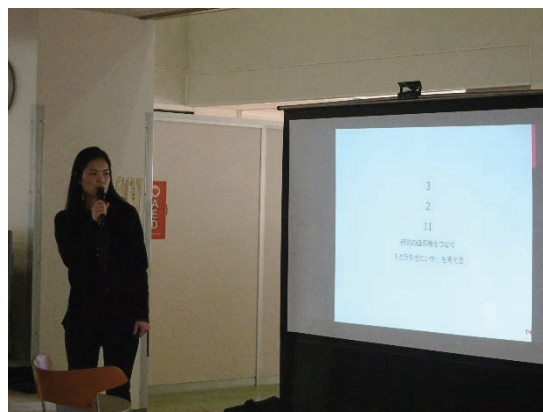
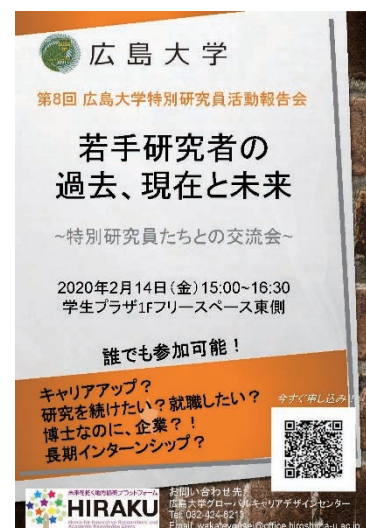
### 【概要】

本報告会は、「若手研究者の過去、現在と未来」というテーマを掲げ、これから研究者に向かおうとする方々に、何か少しでもヒントのようなものをお出しすることができれば、という想いを込めて開催しました。

当日はまず、グローバルキャリアデザインセンター副センター長である 三須 敏幸 教授から開会のご挨拶をいただき、その後、2019年度第1期 広島大学特別研究員である 楊 駒氏、樊 可人氏、ZHANG LINGHAN 氏、BAE JIYUN 氏に1年間の成果をご報告いただきました。

みなさん、それぞれ1年間頑張ってきたことを、短い発表時間だったにもかかわらず、熱く語ってくださいました。特別研究員以降のキャリアを模索していかうと奮闘されてきたことが伝わってきて、参加者にとってどれも意義深いご報告でした。

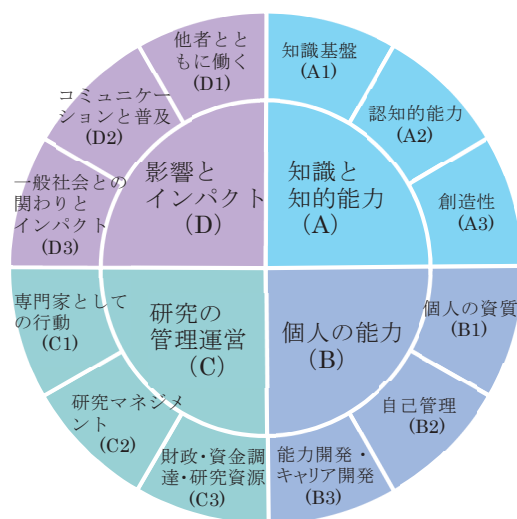
それに引き続き、グループディスカッションを15分間設け、参加者と報告者がキャリアプラン、研究活動、特別研究員の生活などについて、ざっくばらんに意見を交わすことができました。それぞれの想い、現在の生活、就職活動の苦労など、いろいろな話題が出ていました。参加者がこの先キャリアを積んでいく中で、壁にぶつかったり迷いが出てきた時、何かヒントをもらえるような、そんな有意義な時間になりました。



## 10-1-2. HIRAKU 実践プログラム

グローバルキャリアデザインセンターでは、研究キャリアの初期段階にある博士課程後期学生（D）及び若手研究者（PD）を対象に、新分野に挑戦する活力のある研究人材の育成を目的としたプログラム（HIRAKU 実践プログラム）を提供しています。HIRAKU 実践プログラムは、若手研究者がグローバルキャリアデザインセンター担当科目および独自セミナー等を履修・受講することで、社会の多方面で活躍できる素養を身につけることができるように構成されています。

また、若手研究者は「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の基幹 IT システム（若手研究者ポートフォリオ HIRAKU-PF）を通じて、これらの履修・受講履歴や達成状況を記録するとともに、研究人材としての能力を自己チェックし、自身の強みやアピールポイントを理解することができます。さらにグローバルキャリアデザインセンターにおいて、キャリア形成に必要な指導・助言も受けることができる体制を整えていますので、ぜひ、これらのプログラムとシステムを活用してください。



Vitae ©2016 Careers Research Advisory Centre (CRAC) Limited.

### ◆令和元（2019）年度実践プログラム

#### ① 創造性の発揮 —知識と知的能力（ドメインA）

科目・イベント名	開講部局	担当教員	開講期	参 考
イノベーション演習	大学院共通教育（博士課程後期・博士課程）	三須 敏幸	3T	詳細は第6章参照
データサイエンティスト養成	大学院共通教育（博士課程後期・博士課程）	三須 敏幸	前期/集中	

#### ② キャリア開発と自己管理能力の向上 —個人の能力（ドメインB）

科目・イベント名	開講部局	担当教員	開講期	参 考
高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	大学院共通教育（博士課程後期・博士課程）	三須 敏幸	2T	コンソーシアム人材セミナーとして実施。 詳細は第7章参照
高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	大学院共通教育（博士課程後期・博士課程）	三須 敏幸	4T	
長期インターンシップ	大学院共通教育（博士課程後期・博士課程）	三須 敏幸	通年/集中	詳細は第4章参照
理工系キャリアマネジメント	大学院共通教育（博士課程前期）	原田 淳	前期集中	
人文社会系キャリアマネジメント	大学院共通教育（博士課程前期）	森 玲子	前期集中・3T	
ストレスマネジメント	大学院共通教育（博士課程前期）	原田 淳	前期集中・4T	

③ 専門家としての誠実性と管理能力の向上 – 研究の運営管理 (ドメインC)

科目・イベント名	開講部局	担当教員	開講期	参 考
研究の心得~プロフェッショナルになるために~	グローバルキャリアデザインセンター	三須 敏幸	前期・後期/集中	

④ 他者との協働と影響力の向上 – 影響とインパクト (ドメインD)

科目・イベント名	開講部局	担当教員	開講期	参 考
リーダーシップ手法	大学院共通教育(博士課程後期・博士課程)	三須 敏幸	1T	
未来博士3分間コンペティション	グローバルキャリアデザインセンター主催		2019年9月14日	詳細は第6章参照

⑤ 上記以外の奨励科目 (主としてドメインD)

科目・イベント名	開講部局	担当教員	開講期	参 考
オンデマンド英語論文ワークショップ	ライティングセンター	河本 健	通年 オンデマンド開講	
学術文章の書き方とその指導法 - 大学教員を目指して -	教育学研究科	河本 健 他2名	前期	
大学教員養成講座	教育学研究科	佐藤 万知	3T	
コミュニケーション能力開発	統合生命科学研究科	中ノ 三弥子	4T	
Developing Designing Ability	国際協力研究科	藤原 章正	前期	
知的財産及び財務・会計論	工学研究科	伊藤 孝夫	3T	
技術移転論	工学研究科	伊藤 孝夫	2T	
技術戦略論	工学研究科	伊藤 孝夫	4T	
MOT とベンチャービジネス論 /MOT & Venture Business	工学研究科	伊藤 孝夫	1T	
プロテオミクス実験法・同実習	統合生命科学研究科	泉 俊輔, 片柳 克夫	2T/集中	
ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム	理学研究科		2019年 12月7日, 8日	詳細は第6章参照

### 10-1-3. 研究者等紹介

HIRAKU オリジナルウェブサイト, 広島大学グローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成担当ウェブサイト, それぞれに取材コーナーを設けている。

各取材コーナーには, 広島大学学生, 若手研究員が取材・記事作成を行った, 様々な視点からのインタビュー記事を掲載している。

#### (1) 博士人材インタビュー 博士な日々 –意外と知らない博士の生活–

第4回 平成30(2018)年12月25日取材・令和元(2019)年7月16日HP掲載  
広島大学大学院工学研究科 システムサイバネティクス専攻 D3<sup>※</sup> 錢谷 宙さん

「条件不利地域にエネルギーを –研究室の外で見えること–」

研究について

進路について

就職活動について

たおやかプログラムについて

未来博士3分間コンペティション参加について

学生へのメッセージ

取材者感想



※ 経歴は取材当時

(2) 博士の針路 —博士号のその先—

第 21 回 平成 31 (2019) 年 1 月 29 日取材・令和元 31 (2019) 年 5 月 24 日 HP 掲載  
文部科学省 研究開発局原子力課 廃炉技術開発企画官 井出 太郎 氏

「文部科学省という大きな組織におけるキャリアとは」  
キャリア選択について  
キャリアスタイルと仕事のやりがい  
必要な能力・しておいた方がいいと思う経験  
取材者感想



(3) 若手研究者の研究紹介

第 25 回 平成 30 (2018) 年 8 月 2 日取材・令和元 (2019) 年 5 月 29 日 HP 掲載  
広島大学学術院 (大学院統合生命科学研究科) 加藤 節 助教

「集団のために個性をみるということ  
—微生物の有用性のために—」  
研究内容—細胞の個性に着目して—  
研究をはじめたきっかけ  
研究をとおして大切にしていること  
キャリア形成について  
アメリカでの生活  
学生へのメッセージ  
取材者感想



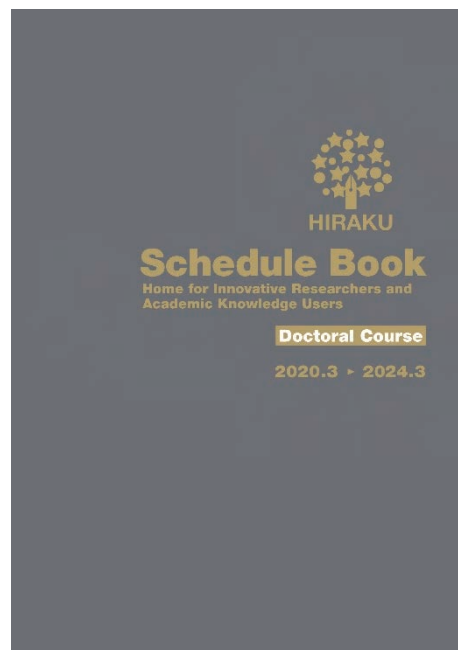


#### 10-1-4. 4年手帳

博士課程後期の心得，進路についてのプランニング，大学で行われている学生支援等について掲載している。博士課程後期の時間を有意義に過ごすために必要な内容を盛り込んだ手帳である。新D1全員に配付している。

Doctoral Course Schedule Book 2020. 3 ⇒ 2024. 3  
(令和2(2020)年3月発行)

- ・ 2020年3月から2024年3月までの  
    カレンダー・スケジュール帳
- ・ 博士課程後期の心得
- ・ 研究に際して重要なこと
- ・ 博士課程後期の学生支援
- ・ 税金・確定申告・健康保険・年金
- ・ Reference for International Students



## 10-2. 山口大学独自の取組

### 10-2-1. 実施体制

山口大学においては、広島大学を中心とするコンソーシアム運営協議会で検討された事項を着実に実施するため、平成 27（2015）年度に「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業に係る国立大学法人山口大学実行委員会」（以下、「学内実行委員会」と呼ぶ。）を設置した（図 1）。以降、事業はこの学内実行委員会の下で実施している。

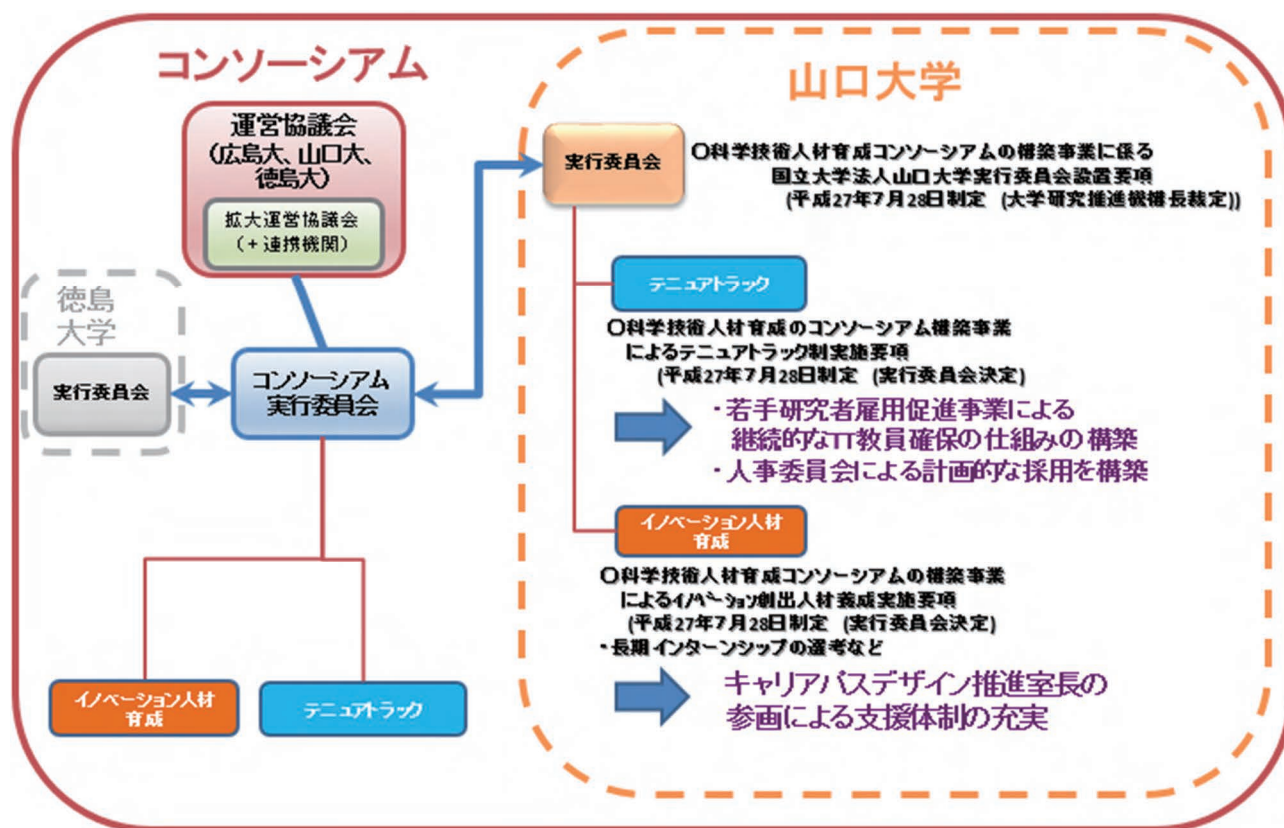


図 1 山口大学における本事業の実施体制

### 10-2-2. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム

#### (1) 定着に向けた学内体制の整備

##### ◆長期インターンシップの共通科目化

山口大学では平成 28（2016）年度に理系大学院を再編成し、創成科学研究科を設置した。この研究科では、共通科目として長期インターンシップが設定されている。またこの研究科では、CPOT（実践教育プログラム）やイノベーション道場「志」（アントレプレナー工房）を立ち上げており、本事業としては今まで同様、今後もこの研究科との連携をはかり、イノベーション人材の養成を定着させていく。

##### ◆キャリアパスデザイン推進室との連携

前述の研究科の再編成に合わせ、従来理工学研究科に所属し大学院生の進路開拓の支援をしていたキャリアパス形成支援室が、創成科学研究科所属のキャリアパスデザイン推進室となり、同様の業務を行なっている。キャリアパスデザイン推進室長は学内実行委員会のメンバーでもあり、緊密な連携を可能としている。

(2) 長期インターンシップ

補助事業期間終了を受けて、長期インターンシップ制度が見直され、派遣者の待遇は、派遣先の定めるところとしたが、本学が必要と認めた場合には、一部交通費を本学独自で支援することとした。また、派遣期間についても、1ヶ月程度以上に変更した。待遇の変更に伴う影響か、自発的な応募者がいなかったため、個別に院生へ働きかけて応募者を発掘し、令和2(2020)年3月現在で、1名についてマッチング中である(表1)。

表1 山口大学の長期インターンシップ派遣実績

年度	計画数	実績数		派遣期間		派遣された学生・研究者								受入れ先								
		応募者数	採用数	2か月程度以内	3か月程度以上	学年(派遣時)内訳				所属研究科内訳			性別内訳		国籍内訳		受入れ先セクター内訳			受入れ先国別内訳		
						D1	D2	D3	PD以上	理工農系	医学系	人社会系	男性	女性	日本人	留学生	民間企業			公的機関・独法など	国内	海外
																	東証一部上場	未上場・ベンチャー	民間小計			
平成27年度	2	3	2	2		2				2				2				1	1	1	2	
平成28年度	2	4	3	3		1	1	1		2		1	3		1	2		1	1	2	3	
平成29年度	2	3	3	3			1	2		1		2	2	1	1	2	1	2	3		3	
平成30年度	2	3	3	3		1			2	2		1	1	2		3		2	2	1	3	
令和元年度	2	1	0																			
令和2年度	2																					
令和3年度	2																					

(3) その他の取組 : 「山口大学大学院生研究手帳」の配布

博士課程学生がイノベーション創出人材となる一助としてコンソーシアム全体で手帳を作成しているが、これを補完するため、本学では博士課程学生(特に創成科学研究科の学生)の科目履修やキャリアデザイン関係科目について、きめ細かにガイダンスするための冊子、「山口大学大学院生研究手帳」を制作し配布している(図2, 図3, 表2)。

図2

「山口大学  
大学院生研究手帳」  
の表紙 4年分



### ○博士課程学生心得

この手帳は大学院博士課程に在学する学生および博士後期課程に進学を希望する学生に提供する。本来、博士後期課程に在籍する学生は1日も早く学生生活を終え社会で活躍する方が期待され、できれば修士課程と合わせて1年短期し、もし可能ならば2年短期するよう努力していただきたい。そのためは出来だけ早く研究に着手し、遂行し、成果を上げる必要がある。創成科学研究科の場合について具体的に記述しているが、他の研究科でも参考になるだろう。

#### ●博士遂行上の一般的プログラム（博士後期課程3年間の工程表）

キャリアデザイン推進室では、大学院生が自らのキャリアパスを確立するようにキャリアデザインⅡ（通年2単位）の企画実施、インターシップの紹介、その他の助言・相談を行っている。そして各種研究資金・奨学金の応募に関する助言、学位をとるために必要なこと、博士人材を求めている社会などについての情報を提供している。

博士後期課程3年の計は進学時にある。次頁の工程表の例を参考にして、各自のより詳しい工程表を立てよう。なお、博士課程修了に必要な要件(学位審査の基準)は専門分野・所属する専攻ごとに異なる。

#### ●ジャーナル論文の書き方

論文を書く前に研究が必要である。研究はまずテーマを探すことから始まるが、このテーマは指導教員に指示されることが多い。現在のように世界中で研究が多岐にわたって行われるとき、学生自らがオリジナルなテーマを探すのは容易ではない。そのようなこともあって指導教員の知恵を仰ぐことになる。テーマが決まれば、文献を調べ、熟読する。その中で、未解決部分、不明部分を探す。この結果に基づいて研究計画を立てる。この研究計画は指導教員とよくディスカッションを行い、計画が出来上がった後に研究を実施する。研究結果をまとめ報告書作りをし、

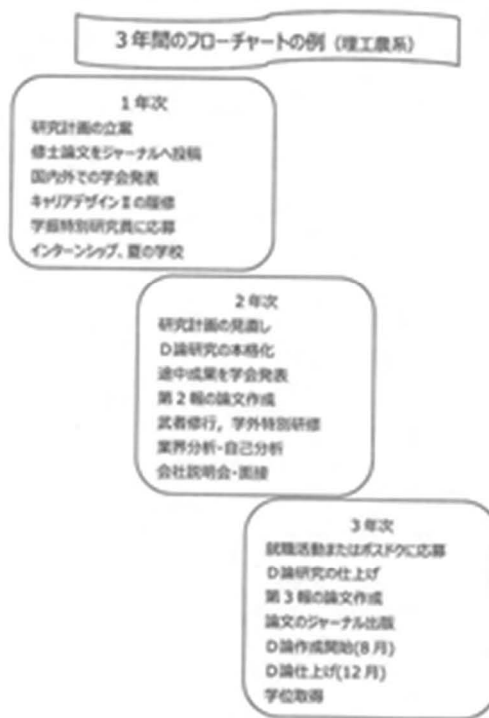


図3 「山口大学大学院生研究手帳」の中身の一部

表2 「山口大学大学院生研究手帳」の配布先

年度	印刷部数	配布部数		配布先キャンパス内訳																	
		うち学生への配布数	うち教員への配布数	吉田キャンパス													常盤キャンパス				
				学生(創成科学研究科=理・農のみ)			学生(東アジア研究科=Dのみの大学院)		教員			職員・その他	吉田キャンパス小計	学生		職員	常盤キャンパス小計				
				D1全員	M1全員	D2以上	D1全員	D2以上	理	農	時間学・総科セ			東アジア等	D1			M1			
平成28年度	1000	732	439	281	9	135	24				68	33	4	4	10	287	19	252	172	2	445
平成29年度	800	454	454		8	113	2	12	6	20	10	0	12	10	193	24	56	175	6	261	
平成30年度	700	552	552		7	115		15		11	10			27	185	22	314	25	6	367	
令和元年度	700	217	217		24	111		14		1	3			25	178	33			6	39	

### 10-2-3. テニユアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム

#### (1) 定着に向けた学内体制の整備

##### ◆若手研究者雇用促進事業の強化

本学では、平成27(2015)年度に、補助金によらない本学独自のテニユアトラック(TT)教員の雇用事業を開始している(表3★の5名)。平成28(2016)年度から、この制度によるス

タート研究費支援や女性教員が採用された場合の部局へのインセンティブ付与など制度を一層整備・強化し、現在に至っている。

◆若手研究者の海外研修等事業

TT 制度とは別に、本学予算による若手研究者の海外研修等の制度（若手研究者短期海外派遣プロジェクト）で若手研究者を海外に派遣した。

(2) テニュアトラック教員採用実績

表 3 に本学において各事業で採用したテニュアトラック教員数を示す。

コンソーシアム事業では、表 3 の●に示すように、平成 27（2015）年度の 2 名を皮切りに、平成 28（2016）年度以降令和元（2019）年度まで各 1 名採用した。この中で特に平成 28（2016）年度は女性限定公募による採用であった。平成 27 年度に採用した 2 名のうち 1 名は既にテニュアを獲得し、もう 1 名は令和 2（2020）年 4 月にテニュアを獲得することが決定した。

表 3 山口大学のテニュアトラック教員の採用実績

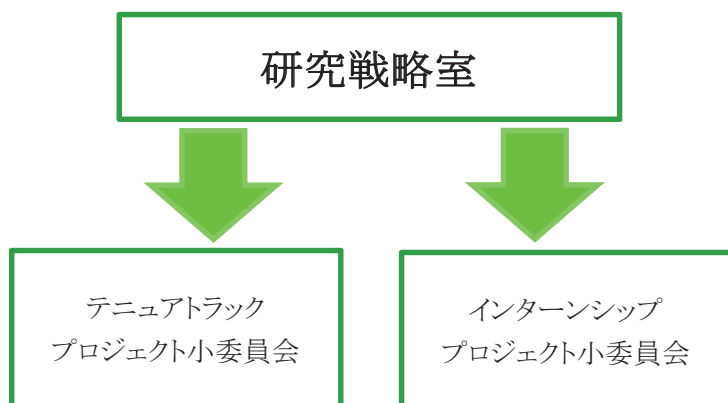
現役TT教員のセルに着色。Wは女性教員を、( )は元TT教員のテニュア獲得日や転出年月を示す。									
所属部局	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
医学系研究科	1名 (平成28年7月 テニュア獲得) W ◆		1名 (平成28年3月 転出) W ▲				1名 (平成30年2 月転出) ★		
創成科学研究科 (理)		1名 (平成29年4月テ ニュア獲得) ■			1名(令和2年 4月テニュア獲 得) ●	1名(令和2 年4月テ ニュア獲 得) ★			
創成科学研究科 (工)	1名 (平成29年1月 テニュア獲得) ◆	1名 (平成29年10月テ ニュア獲得) ■	1名 (平成28年3月 転出) ▲				1名 ●	1名 ●	1名(令和2 年3月1日 着任) W ●
創成科学研究科 (農)			1名 (平成30年8 月テニュア獲 得) ▲			1名 W ●			1名(令和2 年3月1日 着任) ★
共同獣医学部		1名 (平成29年12月 テニュア獲得) W ■			1名(令和2年 2月テニュア獲 得) ●				
時間学研究所					1名 ★			1名 ★	
年次別採用者数	2	3	3		3	2	2	2	2
採用者数累計	2	5	8	8	11	13	15	17	19
テニュアトラック普及・定着事業による採用			●コンソーシアム事業による採用			★自主財源による採用			
◆H23年度公募事業による採用	■H24年度公募事業による採用	▲H24年度(後期)公募事業による採用							

### 10-3. 徳島大学独自の取組

#### 10-3-1. 実施体制

事業開始とともに本学の研究戦略室（室長＝研究担当理事・副学長）において、若手研究者の自立・流動促進プログラムを推進する為の「テニュアトラックプロジェクト小委員会」と、イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラムを推進する為の「インターンシッププロジェクト小委員会」を設置する等、本事業を推進する体制を整備し、テニュアトラック教員の採用や長期インターンシップの派遣に向けて活動を実施している。

[学内実施体制]



#### 10-3-2. 若手研究者の自立・流動促進プログラム

テニュアトラック教員の公募に際しては、大学全体として計画的に取り組むため、研究戦略室会議にて、各部局からの採用提案を受けた上で、最も適切と考えられる部局で公募を実施することとしている。令和元（2019）年度は10月にテニュアトラック教員（次世代フォトニクス研究）を1名採用した。

各教員の今年度の活動は、次のとおりである。

##### ◆谷原特任助教（第3期採用）

- ・「遺伝子改変による、医療研究用モデルブタの作出」をテーマに、今年度も新たに数種の遺伝子改変ブタの作製に成功し、各々論文投稿準備中である。
- ・国内外での学会等に5回参加し、計2回の口頭発表と1回のポスター発表を行った。
- ・論文発表は6本で、うち筆頭著者としては3本を発表した。
- ・平成31（2019）年度科研費に採択されるとともに（若手研究、「ゲノム編集技術を用いた糖尿病性腎症発症モデルブタの創出」）、令和元年度徳島大学・大鵬薬品工業基礎研究推進協議会・がん関連基礎研究（「膵臓がんモデル動物作出技術の確立」）、阿波銀行学術・文化振興財団 第24回助成（学術部門、「合併症研究を促進する高血圧モデルミニブタの作製」）に採択された。

##### ◆Karanjit 特任助教（第4期採用）

- ① O<sub>2</sub> や CO<sub>2</sub> などの小分子を活性化させるための高活性で再利用可能なナノクラスター触媒の設計と調製及び周囲条件下での多成分カップリング反応に関する研究
  - ② 斉炭素-炭素結合形成反応のためのキラル不均一触媒の開発に関する研究を実施
  - ③ 新たなインドール骨格構築法の開発研究を実施
- ・論文3報が掲載された（2019年度）。また、2報が投稿準備中。

- ・薬学実践英語講座（学部1年生：90分 x 10）、薬学英語特論（大学院生：90分 x 15）の講義を担当
- ・国際会議招待講演1件（日本化学会主催アジア国際シンポジウム，2020年3月）
- ・2019年度科研費に採択（若手研究，令和元～2年，直接経費320万円）
- ・特筆すべき事項

下記論文が最もダウンロードされた論文（月間）の一つに選ばれた。

○ A Concise Asymmetric Total Synthesis of (+)-Epilupinine, Tomohiro Tsutsumi, **Sangita Karanjit**, Atsushi Nakayama, Kosuke Namba, Org. Lett. **2019**, 21, 2620-2624.

#### ◆黒田特任助教（第6期採用）

- ・「転写因子 IRF7 による脂肪細胞炎症-代謝制御システムの解明」をテーマに，脂肪細胞において肥満・メタボリックシンドロームに関連する転写因子，IRF7 を同定した。また，IRF7 欠損マウスに対し糖・エネルギー代謝，遺伝子発現解析を行うことで IRF7 の生理機能を検討した。さらに IRF7 によるエネルギー代謝調節の分子メカニズム解明に取り組むとともに組織特異的 IRF7 欠損マウスの作出にも着手している。
- ・論文は，2本掲載（英語原著論文（共著×1，筆頭×1））
- ・学部生，大学院生向け講義，実習及び研究指導を担当
- ・平成30(2018)年度から2年間，科学研究費助成事業（若手研究）に採択  
「脂肪組織由来分泌タンパク質による肝マクロファージ機能制御と NASH 病態への関与」

#### ◆松井助教（第9期採用）

- ・空気圧を用いた人間支援装置の開発をテーマに，徳島大学医学部や，徳島県立工業技術センター，企業との共同研究を進める。
- ・拘縮患者のための手首・手指伸展リハビリテーション装置の開発
- ・糖尿病患者の神経性足潰瘍予防に向けた歩行支援装置の開発
- ・ワイヤ式空気圧シリンダの試作・検討
- ・国際会議での発表を1件，国内の学会・研究会での発表を1件行った。
- ・学部生向け講義，実習及び研究指導を担当
- ・2020年度科研費に申請中
- ・論文1編執筆中

#### ◆長谷特任助教（第11期採用）

- ・次世代フォトンクスに関する「多光子顕微鏡の新奇応用」，「赤外コム応用計測」などをテーマに研究を実施中。
- ・国内学会一般講演1件，国際学会一般講演3件の発表を行った。
- ・国内学会招待講演3件（ポストLEDフォトンクス公開シンポジウム，医用分光学会，レーザー学会）の発表を行った。
- ・原著論文について掲載1報（非筆頭・非責任著者），また筆頭著者として4報投稿準備中。
- ・和文解説論文について筆頭著者として2報掲載。
- ・2019-2020年度科研費若手研究に採択（2年286万円），また中谷医工計測技術振興財団令和元年度技術開発研究助成奨励研究に採択（単年200万円）。その他1件財団助成金に申請中。

また，令和2(2020)年度4月以降に採用するテニユアトラック教員の分野について，研究戦略室内で検討した結果，創薬理論化学分野で1名公募することが決定した。

なお、テニュアトラック教員の公募に際しては、特に次の点に配慮している。

- ・ JREC-IN, コンソーシアム HP, 本学 HP 等に、英語及び日本語の公募要領を掲載するとともに、公募期間は原則2か月を確保するよう努力することで、幅広い人材を募る。
- ・ 公募要領に女性研究者への支援を明記することにより、女性研究者の応募を促す。
- ・ 公募期間の長期確保、英語版公募要領の作成、質問への英語対応等外国人研究者が応募しやすい環境を確保する。

採用後は、研究支援・産官学連携センターに配置している URA により、外部資金獲得に関するサポート（公募情報提供、説明会開催、申請書作成支援等）等を行っている。

[テニュアトラック教員採用数（計画）]

	平成 26 (2014) 年度	平成 27 (2015) 年度	平成 28 (2016) 年度	平成 29 (2017) 年度	平成 30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度
春着任		第 2 期	第 4 期	第 6 期	第 8 期	第 10 期	第 12 期	第 14 期
秋着任	第 1 期(冬)	第 3 期	第 5 期	第 7 期	第 9 期	第 11 期	第 13 期	第 15 期
徳島大学	0	1	1	1	1	1	1	1
コンソ全体	4	8	8	8	8	8	8	8

[テニュアトラック教員採用数（実績）]

	公募開始	公募締切	最終選考	採用日	応募分野	応募者数
第 3 期	平成 27(2015)年 4 月 28 日	平成 27(2015)年 6 月 25 日	平成 27(2015)年 8 月 26 日	平成 28(2016)年 2 月 1 日	家畜繁殖学	1
第 4 期	平成 27(2015)年 10 月 13 日	平成 27(2015)年 12 月 28 日	平成 28(2016)年 2 月 29 日	平成 28(2016)年 4 月 1 日	有機合成薬学	7(1)
第 6 期	平成 28(2016)年 10 月 11 日	平成 28(2016)年 12 月 12 日	平成 29(2017)年 2 月 1 日	平成 29(2017)年 4 月 1 日	メタボローム栄養学	1
第 9 期	平成 29(2017)年 12 月 28 日	平成 30(2018)年 4 月 2 日	平成 30(2018)年 7 月 19 日	平成 30(2018)年 10 月 1 日	ロボット工学	3(1)
第 11 期	平成 31(2019)年 3 月 28 日	令和元(2019)年 5 月 27 日	令和元(2019)年 6 月 27 日	令和元(2019)年 10 月 1 日	次世代フォト ニクス研究	2(1)
第 12 期	令和元(2019)年 10 月 23 日	令和元(2019)年 12 月 24 日	令和 2(2020)年 1 月 16 日	令和 2(2020)年 4 月 1 日	創薬理論化学	1(1)

※( )は女性

### 10-3-3. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム

#### (1) 長期インターンシップ

平成 26(2014)年度から、毎年 2 名の長期インターンシップ派遣を目標として事業を進めている。令和元(2019)年度は、前年度までと引き続き全学的に派遣者を募ったところ、第 10 期、第 11 期と応募があり、最終的に 1 名を国立研究開発法人産業技術総合研究所つくばセンター（つくば）に、1 名を株式会社ファーマフーズ（京都）、1 名を日本テクノサービス株式会社（牛久）に派遣した。なお、派遣先については、派遣する学生と受入先のニーズを踏まえた多様なものになっている。



[長期インターンシップ派遣 (計画) ]

	平成 26 (2014) 年度	平成 27 (2015) 年度	平成 28 (2016) 年度	平成 29 (2017) 年度	平成 30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度
前期		第 2 期	第 4 期	第 6 期	第 8 期	第 10 期	第 12 期	第 14 期
後期	第 1 期	第 3 期	第 5 期	第 7 期	第 9 期	第 11 期	第 13 期	第 15 期
徳島大学	2	2	2	2	2	2	2	2
コンソ全体	6	18	18	18	18	18	18	18

[長期インターンシップ派遣 (実績) ]

	所属	学年	派遣先	派遣期間
第 1 期	2 名選考のみ			
第 2 期	先端技術科学教育部	D3	三菱レイヨン(株)・広島	平成 27(2015)年 9 月 3 日 ～12 月 3 日
第 3 期	先端技術科学教育部	D1	(株)インフォマティクス・大阪	平成 27(2015)年 11 月 9 日 ～平成 28(2016)年 1 月 9 日
第 4 期	先端技術科学教育部	D2	ニタコンサルタント(株)・徳島	平成 28(2016)年 6 月 10 日 ～8 月 9 日
第 5 期	栄養生命科学教育部	D1	理化学研究所・兵庫	平成 28(2016)年 10 月 1 日 ～12 月 31 日
第 7 期	薬科学教育部	D1	東京都医学総合研究所・東京	平成 30(2018)年 2 月 1 日 ～3 月 31 日
第 8 期	先端技術科学教育部	D3	理化学研究所・仙台地区	平成 30(2018)年 9 月 18 日 ～12 月 17 日
第 9 期	地方創生センター	助教	北欧研究所・デンマーク	平成 30(2018)年 12 月 29 日 ～平成 31(2019)年 3 月 29 日
第 10 期	先端技術科学教育部	D2	国立研究開発法人産業技術総合研究所つくばセンター	令和元(2019)8 月 20 日 ～令和元(2019)年 9 月 30 日
第 10 期	先端技術科学教育部	D1	株式会社ファーマフーズ	令和元(2019)9 月 9 日 ～令和元(2019)年 10 月 4 日
第 11 期	薬科学教育部	D1	日本テクノサービス株式会社	令和 2(2020)2 月 21 日 ～令和 2(2020)年 3 月 19 日

(2) その他の活動

博士後期課程学生のコミュニケーション能力の向上を目的として、毎年秋に未来博士 3 分間コンペティションを開催している (@広島大学)。令和元(2019)年度は、7 月 11 日に学内選考会を実施し、昨年度を上回る日本語部門 6 名、英語部門 11 名 (両部門出場者含む) の参加があった。本学からは、日本語部門 5 名、英語部門 4 名を、9 月 14 日の本選に派遣し、3 名が企業賞を受賞した。



### (3) 特筆すべき活動

コンソーシアムの連携機関への新規加入を促進するため、広島大学とともに事業紹介の為の一般事業向けパンフレットを作成し、企業、機関への説明を積極的に行っている。令和元(2019)年度は、本事業についての理解・関心を広めるべく、次のイベントに参加し、ポスター展示・紹介を行った。

- ・ 9月27日 徳島大学社会産業理工学研究交流会（旧エンジニアリングフェスティバル）（徳島市）
- ・ 10月10日～12日 徳島ビジネスチャレンジメッセ 2019（徳島市）

また、様々な分野の企業の研究者または人事関係者等を講師に招聘し、会社概要や研究開発内容の紹介、研究者の業務、企業の求める人材像等について講演いただく人材セミナーを、令和元(2019)年度は3回開催した。

- ・ 第90回コンソーシアム人材セミナーin 徳島  
「島根大学発ベンチャーの取り組み—起業による benefits と研究推進」  
令和元(2019)年7月18日（研究支援・産官学連携センター，産業院，人と地域共創センターと連携）
- ・ 第91回コンソーシアム人材セミナーin 徳島  
2019年度 徳島大学産業院セミナー  
令和元(2019)年11月22日（研究支援・産官学連携センター，教養教育院，高等教育研究センター，地方大学・地域創生事業室と連携）
- ・ 第92回コンソーシアム人材セミナーin 徳島  
「日本学術振興会（JSPS）特別研究員制度説明会」  
令和2(2020)年3月18日（研究支援・産官学連携センターと連携）  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止しました。  
併せて、研究者としてのキャリアアップを目指す機会として、次のセミナーを開催した。
- ・ プレゼンテーション・ワークショップ  
令和元(2019)年6月13日（広島大学からTV中継）
- ・ 科研費セミナー

令和元（2019）年9月19日（研究支援・産官学連携センターと連携）

- ・研究倫理・コンプライアンス研修会

令和2（2020）年3月3日（研究支援・産官学連携センター，AWA サポセンターと連携）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため，中止しました。

更に，博士人材を増やすための取組として，学生の意識啓発のためにコンソーシアムで作成した小冊子や，新D1の学生が自覚を持って大学院生活を送ることを狙って作成した「4年手帳」を，入学ガイダンス時に配布した。

## 11. 外部評価

### 11-1. 外部評価委員会

若手研究人材養成担当では、外部の関連組織・有識者の方に外部評価委員を委嘱し、本システムの外部評価を受けている。外部の方の意見を真摯に受け止め、より良い取組とするよう努めている。

平成 31（2019）年度は HIRAKU 事業の補助金が終了となり、独自経費で事業を継続する。独自経費での運営が 1 年間経過した令和 2（2020）年度に、第 5 回外部評価委員会を開催する予定である。

**未来を拓く地方協奏プラットフォーム  
令和元(2019)年度 成果報告書**

**【発行年月】** 令和2(2020)年 3月

**【改訂年月日】** 令和2(2020)年 5月 15日

**【編集・発行】** 「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」運営協議会事務局  
広島大学グローバルキャリアデザインセンター  
(若手研究人材養成担当)

**【所在地】** 〒739-8514 東広島市鏡山一丁目7番1号(学生プラザ2F)

**【TEL】** 082 -424 -2058      **【FAX】** 082 -424 -4565

※無断複写・転載を禁じます







未来を拓く地方協奏プラットフォーム

**HIRAKU**

Home for Innovative Researchers and  
Academic Knowledge Users